



第 2 章
法人報告
事業報告

2018 年度けいじゅヘルスケアシステム方針

惑星直列と呼ばれる大きな変革の年になる。4月にはトリプル計画といわれる地域医療構想を含む「第7次医療計画」「第3期医療費適正化計画」「第7期介護保険事業計画」の策定、またトリプル改定といわれる「診療報酬」「介護保険報酬」「障害福祉サービス等報酬」の改定、さらには新専門医制度が始まり、働き方改革の議論が佳境を迎える。これらに、慢心することなく丁寧に適応、対応したい。

それ以上に、この先の 2020 年のポストオリンピック・パラリンピックの**社会構造の変化**への対応を見据えねばならない。29 年度方針であった QOL 経営を継続しながら、共有できる価値を創り出し、定義していかなばならない。

継続的基本方針

1. 患者・利用者に信頼される医療機関・介護施設となる
2. 地域社会から必要とされる医療機関・介護施設となる
3. 経営の健全性を維持する
4. 患寿フィロソフィの周知・浸透

単年度方針

『創れ！患寿バリュー』

職員間、部署間はもとより、**患者・利用者**と、そして**地域社会**と**共有できる価値**を創ろう。価値観は時代とともに変化する。医療・介護・福祉のあり方、生活、人生（誕生から終末期）、満足度、働き方など、それぞれは過去ものを踏襲するだけではない。また、お仕着せの価値観であってはならない。われわれは、われわれが誇りを持つ、われわれの価値を創造し続けなければならない。

TQM 発表大会（董仙会）

■前期 第16回 2018年10月20日（土）コスモアイル羽咋 大ホール

セッション1 財務の視点 顧客の視点『収益増 生産性向上』座長：恵寿総合病院 整形外科科長 森永 敏生

サークル・部署	テーマ
本院 医事課、医療秘書課、診療部	救急医療管理加算等の取得に向けて
本院 リハビリテーション部	目標設定等支援・管理料の該当者を把握し加算を取得、減算者を減らす ～医療・介護連携を充実させ、質の高いリハビリテーションを提供する～
董仙会管理栄養士	栄養ケア計画の質向上 ～介護報酬改定への対応～
NSK48（内視鏡課・サービス課・健康管理センター）	二次健診・初診の予約化を目指して
◎本部企画課、放射線課、健康管理センター	みんなで受けよう！乳がん検診 ～トモシンセシスの運用にむけての取り組み～

セッション2 顧客の視点 業務の視点『新サービスの創出 顧客満足』座長：恵寿総合病院 臨床栄養部長 神経内科科長 木元 一仁

サークル・部署	テーマ
ファシリティー・バリューアップチーム（介護事業所）	入所セットの導入を顧客・職員満足につなげる
Keiju 特定看護師（本院 看護部）	当院における看護師特定行為の実践報告
◎恵寿金沢病院 臨床検査課 看護部外来	検査技師による採血業務への進出とそれに伴う看護部外来との連携
ステップサークル（本院 臨床検査課）	より良い外来業務を目指して ～心エコー検査の待ち時間平準化～
本院 管理課 恵寿金沢病院 管理課	働き方改革に向けて ～医師の勤務管理導入～

セッション3 学習と成長の視点『人材育成 戦略リクルート』座長：田鶴浜診療所所長 鶴友苑施設長 廣正 修一

サークル・部署	テーマ
おうえんし隊（手術室、本館6階、血液浄化センター）	他部署への応援体制をつくる ～15分でも応援を～
本部財務部	本部財務部内人事交流の実施
◎Admission さぼりとK（本院 看護部外来、5東、5-3、医療福祉相談課）	切れ目のない支援の実現に向けて仕組みを構築しよう ～入院時支援加算の算定を通じて～
本院 看護部 3-2	産休・育休後の働き方支援 ～育 Cafe を開いて～
看護部（恵寿総合病院・恵寿金沢病院）、本部	働く職場を知ってもらおう！ ～インターンシップを開催して～

◎：優秀サークル

■後期 第17回 2019年3月9日（土）七尾サンライフプラザ

セッション1『収益増&顧客満足』座長：恵寿総合病院 診療部長 山崎 雅英

サークル・部署	テーマ
◎本院 医療安全管理部	新規加算取得にむけて～地域連携加算・抗菌薬適正使用支援加算を算定できる～
本院 看護部・医事課	看護必要度ⅠとⅡの差を5%以内にするために
介護事業部 和光苑 鶴友苑 鳩ヶ丘	新設の低栄養リスク・褥瘡マネジメント・排泄支援加算でケアの質向上を！ ～介護の質を向上させよう～
本院 地域連携課 サービス課 健康管理センター	カルテコの拡大～BSCストーリーに基づく各課の取り組み～
本院 外来・3-2・5 西	「カルテコに登録して健康管理」～あなた自身で「生きる」をデザインしよう～

セッション2『新サービス&医療・介護の質』座長：恵寿総合病院 副診療部長 川村 研二

サークル・部署	テーマ
本部 生活支援部	董仙会生活支援事業の取り組み～バンリー七尾店 オープン～
本院 医療の質向上委員会	QIと医療の質向上
恵寿金沢病院 薬剤課・看護部	内服支援の仕組みづくり～簡易懸濁手順の標準化～
本院 ローレルクリニック 臨床工学課	全自動人工透析装置導入による業務改善
◎介護事業部	ノーリフティング介護の理解と実践～楽でいいがいねとなるために～

セッション3『医療・介護の質&人材育成』座長：恵寿金沢病院 看護部長 前大道 綾子

サークル・部署	テーマ
介護事業部	「恵寿フィロソフィ」周知・浸透への取り組み～フィロソフィをより身近なものとするために～
本部 総務部	65歳定年延長制度の導入について～雇用確保から戦力化へ～
本院 外来・3-3・5-4・5-5	排尿自立支援の確立に向けて～患者に寄り添った排尿支援～
恵寿金沢病院 3階病棟	退院支援への第一歩～整形用アナムネ用紙を作成して～
◎本院 6東・6西・5西・4西・3-3・5-4・5-5・MSW	患者、家族に寄り添った退院支援を目指して

◎：優秀サークル

第2章 法人方針・事業報告

事例研究大会（徳充会）

■大会テーマ『新たな価値の創造～自らをinnovationする～』 ■日時：2019年3月2日（土）サンビーム日和ヶ丘

第1部

所属	発表者	タイトル
エレガントたつるはま 健康増進センターアスロン	福島 邦子、青木 崇、入山 外美恵	移乗に対する職員の意識改革 ～負担の少ない介護を目指して～
☆エレガントなぎの浦	浜森 希、西田 さおり、谷口 ひとみ、小石 佳奈	広げようアスロンの輪！ ～新規入会キャンペーン～
青山彩光苑穴水ライフサポートセンター	細川 由紀、諸谷 百合子、幸田 恵、中西 真優美	施設だからこそできる看取りケア
本部事務局	碓井 求、浅田 恵果	ノーリフトの定着 ～「変えられない」を変えていこう～
エレガントなぎの浦	三輪 尚未、川北 良太、松本 美華	電気料金値上げへの対応 ～新電力会社との契約～
ワークセンター	浜崎 久代、柿島 栄美子、順毛 沙弥香、刀根 千恵	行事の改善 ～楽しい楽しい「年忘れ会」～
石川県精育園	池田 浩	新規事業における小松菜栽培 ～冬季栽培の検証～
表 晃一		自立排便を目指して ～洗腸の使用頻度を減少させるには～
青山彩光苑ライフサポートセンター	松柳 満城子	女子部の活動を通して ～アラフォー女子そんなに悪くない～
◎石川県精育園	濱谷 江美、大町 みずき、真郷 陽子、新谷 沙耶香、浜谷 ふみ子	不適切ケアを無くす現場の取り組み ～つなぎ服にこだわる利用者のために～
青山彩光苑リハビリテーションセンター	石渡 和美	機能訓練事業の役割 ～事例を通して考える～
青山彩光苑穴水ライフサポートセンター	高見 翼	優勝したい！ ～ポッチャの技術向上に向けた取り組み～

第2部

所属	発表者	タイトル
☆青山彩光苑ライフサポートセンター	山本 奈々、杉沢 美智子、木村 輝江	自由な活動参加を目指して ～排泄面に着目した皮膚状態改善の取り組み～
障害者生活支援センター	宮本 あい、江口 千夏	地域共生型を意識できる取り組み ～創作活動の開催を通して～
自立ホームけいじゅ	下出 卓哉、岡峰 悦子、岡田 昌大	奥能登初の行動援護による地域貢献
ローレルハイツ恵寿	谷渡 早苗、三山 薫	ノーリフティング導入 ～介護負担軽減を目指して～
石川県精育園	高城 英隆、大町 みずき、水端 郁枝、平沢 麻里、浦 優子、その他5名	統一した排泄記録表の使用を目指して
エレガントなぎの浦	杉本 健、庵 実里、山田 紀代子	男性利用者に喜ばれる活動 ～麻雀を通して～
エレガントなぎの浦	辻 啓子、加藤 弘美、武田 京介、山本 順子	口腔内の継続した清潔の保持を目指して ～多職種での統一した支援～
青山彩光苑ライフサポートセンター	近藤 由香理、山口 雅大、新 はるか、坂下 莉緒	青山初！設置型リフト導入 ～持ち上げない介護を目指して～
エレガントたつるはま	川口 厚、宮内 友美、関根 康子、荒木 実千代、塚 真理子	尿とりパッドを見直して ～排泄チームの取り組み～
石川県精育園	川島 大和、高城 英隆、垣内 成都、宮前 鴻輝、西海 加津彦	自分で出来ることの発見 ～洗濯支援を通して～
青山彩光苑穴水ライフサポートセンター	山岸 美由紀、船山 和浩、宮西 竜太郎、船山 喬	ケアガイドライン委員会の取り組み ～強化月間を実施して～
エレガントなぎの浦	山口 直美、佐藤 律子、久岡 タ子	健康教室・復活へ！ ～参加型で楽しく～

第3部

所属	発表者	タイトル
石川県精育園	黒詰 好美、大林 尚美、栃木 和美	「一歩踏み出す勇氣」～地域移行グループワークを通して～
青山彩光苑ライフサポートセンター	山田 美枝、木村 輝江(青山ライフ)、山口 直美、久岡 タ子(エレガントなぎの浦)、浦 優子、高田 奈於(精育園)、岡田 理華(穴水ライフ)	施設でも家庭でも活用できる災害時の食の備え ～栄養士全員で取り組んだバッククッキング講習会～
○ふれあいの里	出村 陽子、谷口 美帆、竹中 彩乃	タイルアートプロジェクト ～浴室の壁に富士山の絵を描こう～
青山彩光苑リハビリテーションセンター	澤村 麻紀	「障害者トライアル雇用」利用時における就労移行支援事業所としてのかかわり
青山彩光苑穴水ライフサポートセンター	坂尻 三嘉、浦上 智和	エリザベス外出支援
ヘルパーステーションローレル	林 ひとみ	在宅支援でノーリフティング ～持ち上げない・抱え上げない介護～
青山彩光苑ライフサポートセンター	嶋田 紀依	安心して排泄するために ～安全な移乗方法・介助負担の軽減を考える～
ふれあいの里	内山 清一、辻 美香、甲谷 一美、西川 繁子	転倒の痛みや苦しみを減らしたい ～転倒予防の実施～
ローレルハイツ恵寿	山中 麻緒、吉田 来未	目指せ！漢検合格 ～「達成感」のあるシニアライフ～
◎もみの木苑	庵 光世、岡部 隼人、高島 直大、谷内 登美子	いいもん作らん会活動報告 ～田畑支援より～
エレガントなぎの浦	宝達 寿希也、三野 しのぶ、藤井 真紀、北村 寿史	ノーリフト介護を目指して一歩ずつ
○青山彩光苑穴水ライフサポートセンター	岡田 理華、諸角 朝子、坂口 保奈美	「食べたい」に寄り添う ～摂食嚥下障害へのアプローチ～

【障がい者事業局・高齢者事業局】◎：最優秀賞 ○：優秀賞 ☆：苑長賞

メディア掲載（董仙会）

日付	内容	掲載媒体
2018.4.27	七尾鹿島の新社会人抱負	北國新聞・北陸中日新聞
2018.4.28	県内初の介護医療院	北國新聞
2018.5.8	介護医療院 恵寿鳩ヶ丘	日本経済新聞
2018.6.22	新しい外来診察室で働き方が変わる	日経メディカル
2018.7.4	看護職の魅力徹底解析 助産師編	看護系の受験情報 FLAP!高校生版
2018.8.10	「ユニバーサル外来」で業務効率化	月刊 保険診療
2018.8.25	恵寿総合病院が一貫する「本来業務」に集中する働き方-神野正博氏 インタビュー【前編】	病院経営事例集
2018.8.25	3D 画像で乳がん検診	北國新聞
2018.8.29	恵寿総合病院が新しい取り組みに挑戦し続けられる理由-神野正博氏 インタビュー【後編】	病院経営事例集
2018.9.22	恵寿鳩ヶ丘 100 歳お祝い	北國新聞・北陸中日新聞
2018.9.26	和光苑 100 歳お祝い	北國新聞・北陸中日新聞
2018.9.27	特定行為研修修了式	北國新聞
2018.10.5	海保ヘリ、離着陸訓練	北國新聞・北陸中日新聞
2018.10.11	国際病院連盟特別賞 恵寿病院(七尾)が受賞	中日新聞(CHUNICHI Web)
2018.10.11	国際病院連盟特別賞	北陸中日新聞
2018.10.13	恵寿総合病院に特別賞	北國新聞
2018.10.20	外来の効率化 生産性向上の視点から見た「ユニバーサル外来」	病院羅針盤
2018.10.23	病院の未来予想図 ユニバーサル外来という新提案①	soleil
2018.11.4	七尾高校キャリア教育講演会	北國新聞・北陸中日新聞
2018.11.5	桜町・富岡町合同防災訓練	北國新聞
2018.11.11	恵寿鳩ヶ丘 ケアフェスタ	北國新聞
2018.11.18	羽咋高校医志未来塾	北國新聞・北陸中日新聞
2018.11.27	恵寿総合病院野球部 のとしん杯優勝	北國新聞
2018.12.1	患者支援で「便利屋」参入	北國新聞
2018.12.5	恵寿総合病院の「ベンリー」開業	北國新聞
2018.12.5	地域医療次の一手	Monthly ミクス
2018.12.6	病院の未来予想図 ユニバーサル外来という新提案②	soleil
2018.12.19	恵寿総合病院 ユニバーサル外来	日経 MJ
2018.12.19	「けいじゅ見守り隊」	北國新聞・北陸中日新聞
2018.12.23	病院の実力 肺がん	読売新聞
2019.1.1	愛される AI パルコ	読売新聞
2019.1.1	未来の病院をデザインする	病院新聞

第 2 章 法人方針・事業報告

日付	内容	掲載媒体
2019.1.5	けいじゅヘルスケアシステム 自衛消防隊出初め式	北國新聞
2019.1.7	スマホで家でもカルテ	読売新聞
2019.1.27	病院の実力 肺臓がん	読売新聞
2019.1.27	病院広報誌発刊 100号	北陸中日新聞
2019.2.6	患者や高齢者の生活支援で「便利屋」事業に参入	地域情報(県別)
2019.2.13	七尾・恵寿総合病院 リハビリ充実	北陸中日新聞
2019.2.14	国際病院連盟特別賞の授与式	医事業務
2019.2.22	健康経営優良法人 2019 認定	北國新聞
2019.2.24	病院の実力 前立腺がん	読売新聞
2019.2.24	健康経営優良法人に七尾の董仙会を認定	北陸中日新聞
2019.2.25	恵寿 FC3 位入賞	北國新聞
2019.2.28	外国人と働く③	北國新聞
2019.3.13	和光苑 100歳お祝い	北國新聞
2019.3.16	外国人患者受け入れ機関の認証を更新	北國新聞
2019.3.27	新病院長に鎌田氏	北國新聞・北陸中日新聞

メディア掲載（徳充会）

日付	内容	掲載媒体
2018.4.11	いしかわ魅力ある福祉職場認定制度の認定交付式 -徳充会-	北國新聞・北陸中日新聞
2018.5.21	日産労連 NPO センター「ゆうらいふ 21」と、劇団飛行船のチャリティーきゃらばん隊が来苑 -青山彩光苑-	七尾市にこここチャンネル
2018.5.29	グランドゴルフ大会開会式 -ふれあいの里-	北國新聞
2018.6.3	第 55 回運動会 -石川県精育園-	北國新聞・北陸中日新聞
2018.6.28	不審者対応訓練 -石川県精育園-	北陸中日新聞
2018.7.17	漢字検定受検 -ローレルハイツ恵寿-	北國新聞・北陸中日新聞
2018.7.18	時鐘ノートの書き写し -ローレルハイツ恵寿-	北國新聞
2018.7.30	夏祭り -穴水ライフサポートセンター-	北國新聞・北陸中日新聞
2018.8.13	夏祭り -ローレルハイツ恵寿-	北國新聞
2018.8.30	漢検 全員合格 -ローレルハイツ恵寿-	北國新聞
2018.9.7	大浴場に富士山を作成 -ふれあいの里-	北國新聞
2018.9.30	第 1 回北信越ポッチャオープン大会第 1 日 -穴水ライフサポートセンター-	北國新聞・北陸中日新聞
2018.10.1	第 1 回北信越ポッチャオープン大会第 2 日 -穴水ライフサポートセンター-	北國新聞・北陸中日新聞
2018.10.2	利用者 桶屋善一氏が小冊子作成 -青山彩光苑-	北陸中日新聞
2018.10.18	穴水高等学校との花文字アート製作 -石川県精育園-	北國新聞
2018.11.12	精育園祭 -石川県精育園-	北國新聞
2018.11.19	第 14 回県ポッチャ大会 -穴水ライフサポートセンター-	北國新聞・北陸中日新聞
2018.11.22	防犯訓練 -青山彩光苑-	石川テレビ・北國新聞・北陸中日新聞
2018.12.4	花文字アートを飾る -石川県精育園-	北國新聞
2018.12.6	絵画と陶芸作品展 -石川県精育園-	北陸中日新聞
2018.12.9	障がい者週間イベント -穴水ライフサポートセンター-	北國新聞・北陸中日新聞
2018.12.9	災害ボランティア養成講座 -石川県精育園-	北國新聞・北陸中日新聞・穴水町広報
2018.12.17	花と寄せ植え講習会 -石川県精育園-	穴水町広報
2018.12.26	福祉体験（石崎小学校） -支援センター-	七尾ごころ（七尾市広報）
2019.2.9	七尾鹿島防火協会 防火優良従業員 表彰式 -青山彩光苑-	北國新聞
2019.2.9	年末助け合い募金 -石川県精育園-	北陸中日新聞
2019.2.14	輪島市交通安全協会連合会 優良安全運転管理者表彰 -石川県精育園-	北陸中日新聞
2019.2.28	穴水の昔話 方言劇 -自立ホームけいじゅ-	北國新聞
2019.3.6	障害に負けず美を追求 -石川県精育園-	北陸中日新聞
2019.3.8	田中さん初の個展 -石川県精育園-	北國新聞
2019.3.27	百歳表彰（七尾市） -エレガンテナぎの浦-	北國新聞・北陸中日新聞

第 2 章 法人方針・事業報告

来訪者一覧（董仙会）

日付	来訪者	見学内容
2018.4.24	小倉第一病院（理事長他、計 20 名）	病院建築プロセス
2018.6.1	情報労連 NTT 系労働組合（14 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2018.6.19	河北総合病院（経営管理統括本部長他、計 3 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2018.6.27	製鉄記念室蘭病院（事務長他、計 4 名）	恵寿総合病院
2018.6.27	トヨタ記念病院（事務長他、計 2 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2018.6.28	ひたちなか総合病院（総看護師長他、計 2 名）	コールセンター、入退院支援
2018.7.13	岡山旭東病院（3 名）	けいじゅヘルスケアシステム、地域連携
2018.8.29	医療法人社団元気会横浜病院（理事長他、計 5 名）	けいじゅヘルスケアシステム、セントラルキッチン
2018.8.29	さわらび会（CEO1 名）	けいじゅヘルスケアシステム、セントラルキッチン
2018.8.29	東日本税理士法人（代表社員他、計 4 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2018.8.30	ジャパンメディカルアライアンス（副院長他、計 7 名）	ユニバーサル外来
2018.9.13	御祓川大学 インターンシップ（6 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2018.10.13	厚生労働省 看護課（4 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2018.10.16	自見はなこ（参議院議員他、計 4 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2018.10.25	医療法人鶴谷会鶴谷病院（理事長他、計 21 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2018.10.26	日本経済新聞（2 名）	ユニバーサル外来
2018.11.5	春回会 井上病院（副院長 1 名）	ユニバーサル外来
2018.11.13	山形県病院事業局県立病院課（4 名）	ユニバーサル外来
2018.11.14	赤穂中央病院（栄養課他、計 4 名）	セントラルキッチン、給食
2018.11.14	アルペンリハビリテーション病院（4 名）	セントラルキッチン、給食
2018.11.15	春回会 井上病院（法人事務局次長他、計 3 名）	セントラルキッチン、コールセンター
2018.11.19	MMPG（18 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2018.11.22	医療法人香徳会（法人本部 事務局長他、計 6 名）	サービスセンター、電子カルテシステム
2018.11.26	兵庫県健康福祉部（健康福祉部長他、計 2 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2018.12.11	浦添総合病院（病院長他、計 5 名）	建築、ユニバーサル外来
2019.1.11	川島病院（副院長他、計 7 名）	建築、ユニバーサル外来
2019.1.15	厚生労働省医政局総務課（3 名）	働き方改革
2019.1.16	社会医療法人河北医療財団（経営統括本部長他、計 13 名）	情報システム
2019.1.17	医療法人 鉄蕉会 亀田総合病院（理事他、計 14 名）	ユニバーサル外来
2019.2.1	医療法人社団 洋和会 池田病院（医師他、計 2 名）	けいじゅデリカサプライセンター
2019.2.6	SPRING フォーラム（9 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2019.2.7	医療法人丸山会（情報企画課長他、計 6 名）	けいじゅサービスセンター、ユニバーサル外来
2019.2.18	能登地区看護協会（20 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2019.2.20	一般財団法人 脳神経疾患研究所（常務理事他、計 2 名）	けいじゅデリカサプライセンター
2019.3.5	公益財団法人仁泉会（経営企画部長他、計 14 名）	けいじゅサービスセンター、ユニバーサル外来
2019.3.5	社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院（11 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2019.3.11	社会医療法人昌林会 安来第一病院（理事長他、計 10 名）	けいじゅサービスセンター、ユニバーサル外来
2019.3.11	社会医療法人 大道会 本部（本部事務局長他、計 4 名）	けいじゅヘルスケアシステム
2019.3.28	公益社団法人経済同友会（2 名）	けいじゅヘルスケアシステム

来訪者一覧（徳充会）

日付	来訪者	見学内容
2018.4.24	小倉第一病院（12名）	ローレルハイツ恵寿 サ高住
2018.4.24	伊藤喜三郎建築研究所（8名）	ローレルハイツ恵寿 サ高住
2018.5.22	石川県田鶴浜高等学校衛生看護科専攻科 （教員2名、2年生36名 計38名）	青山彩光苑 見学
2018.8.2	穴水町身体障害者福祉協会・穴水町社会福祉協議会職員（14名）	青山彩光苑 見学
2018.7.9	宝達志水町民生委員（14名）	青山彩光苑 見学
2018.9.27	ドラゴンゲートプロレス	青山彩光苑見学 慰問
2018.10.23	白山市 民生委員 女性会（18名）	ローレルハイツ恵寿 サ高住
2018.10.25	鶴谷病院（医師、他 計21名）	ローレルハイツ恵寿 サ高住
2018.11.2	早稲田大学人間科学学術院（3名）	ローレルハイツ恵寿 サ高住
2018.11.7	董仙会 20年研修（8名）	ローレルハイツ恵寿 サ高住・ケアハウス
2018.11.19	MMPG・島津会系税理士法人（1名）	ローレルハイツ恵寿 サ高住
2018.11.19	MMPG・株式会社川原経営総合センター（3名）	ローレルハイツ恵寿 サ高住
2018.11.19	MMPG・佐藤康昌税理士事務所（1名）	ローレルハイツ恵寿 サ高住
2018.11.19	MMPG・税理士法人アイ・パートナーズ（1名）	ローレルハイツ恵寿 サ高住
2018.11.19	MMPG・葵総合税理士法人（1名）	ローレルハイツ恵寿 サ高住
2018.11.19	MMPG・税理士法人たすき会（1名）	ローレルハイツ恵寿 サ高住
2018.11.19	MMPG・株式会社ユアーズブレン（2名）	ローレルハイツ恵寿 サ高住
2018.11.19	MMPG・みどり合同税理士法人（1名）	ローレルハイツ恵寿 サ高住
2018.11.19	MMPG・税理士法人諸井会計（1名）	ローレルハイツ恵寿 サ高住
2018.11.19	MMPG・株式会社日本 M&A センター（3名）	ローレルハイツ恵寿 サ高住
2018.11.19	MMPG・パラマウントベッド（2名）	ローレルハイツ恵寿 サ高住
2018.11.19	MMPG・事務局（2名）	ローレルハイツ恵寿 サ高住
2018.11.26	兵庫県健康福祉部健康局（1名）	ローレルハイツ恵寿 サ高住
2018.12.7	愛の助け合い運動 JA 能登わかば 女性部（2名）	青山彩光苑
2019.1.15	厚生労働省医政局総務課（3名）	ローレルハイツ恵寿 サ高住
2019.2.18	能登中部地域 看護協会員（22名）	ローレルハイツ恵寿 サ高住・ケアハウス
2019.2.22	能登中部地域 看護協会員（22名）	ローレルハイツ恵寿 サ高住・ケアハウス

■ 継続的基本方針

法人が社会に選ばれ続けるために、「石川県と言えば恵寿である」と全国から評価される法人を創ってきた。しかし、そのことを恵寿の膝下である地域住民に理解されているだろうか？その前に職員は理解しているのだろうか？職員は、恵寿フィロソフィに則り素晴らしい恵寿、一流の恵寿となるために常に創造して欲しい。そして新たな恵寿ブランドを創って行かなければならない。

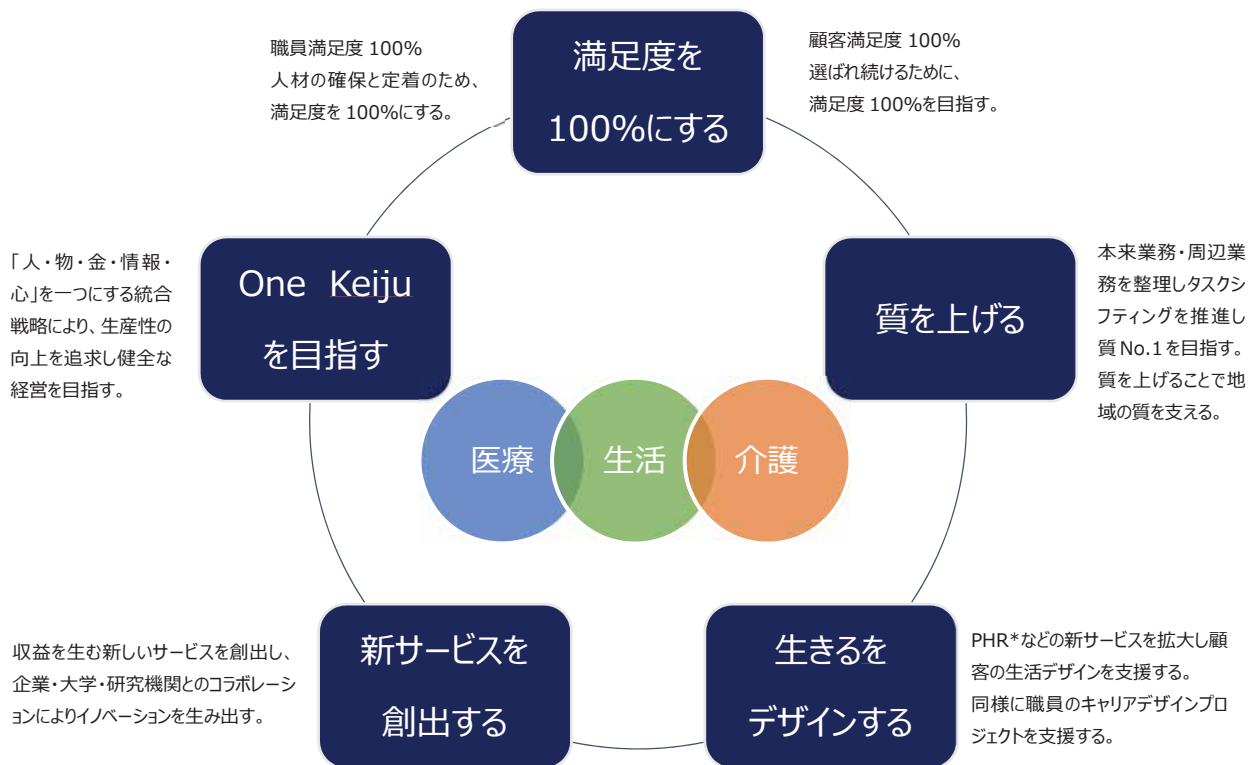
□ 継続的基本方針を達成するための基本戦略

【チャレンジ精神を持ち常に創造する】

今、顧客の価値観が変わってきている。これに対応して私たちは新しい価値を見出していかなければならない。かかりたい病院、家族を利用させたい施設を創り出すことに邁進しなければならない。今までのサービスを全く新しいものに作り直すくらいの気概が必要である。

【恵寿ブランドの創出】（ブランディング）

法人は、これから ①満足度を100%にする ②One Keijuを目指す ③生きるをデザインする ④質を上げる ⑤新サービスを創出する 以上を実現し、新たな恵寿ブランドを創って行く。



PHR*とは、パーソナルヘルスレコード(Personal Health Record)を示す。個人が、自らの生活の質(QOL)維持や向上を目的として、自らの生涯健康情報を収集・保存・活用する仕組み。董仙会ではMDV社の「カルテコ」を導入。

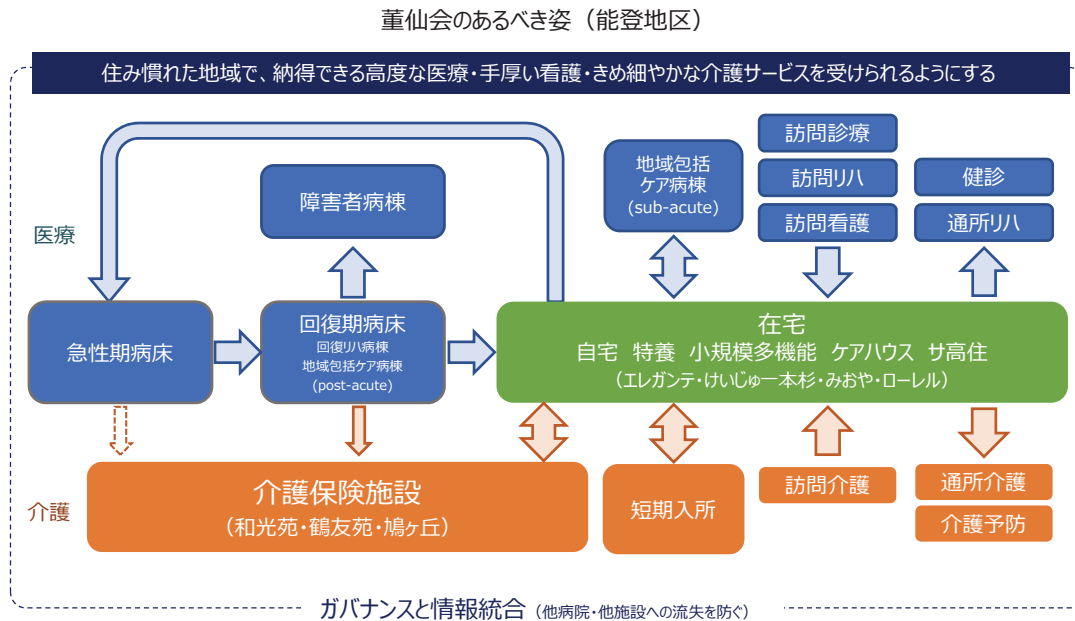
■ 法人のあるべき姿・顧客のあるべき流れ

基本戦略、施策を達成する前提として、能登地域・金沢地域の方針・顧客のあるべき流れを図に示す。すべての職員が理解し、業務を遂行しなければならない。

□ 能登地区方針

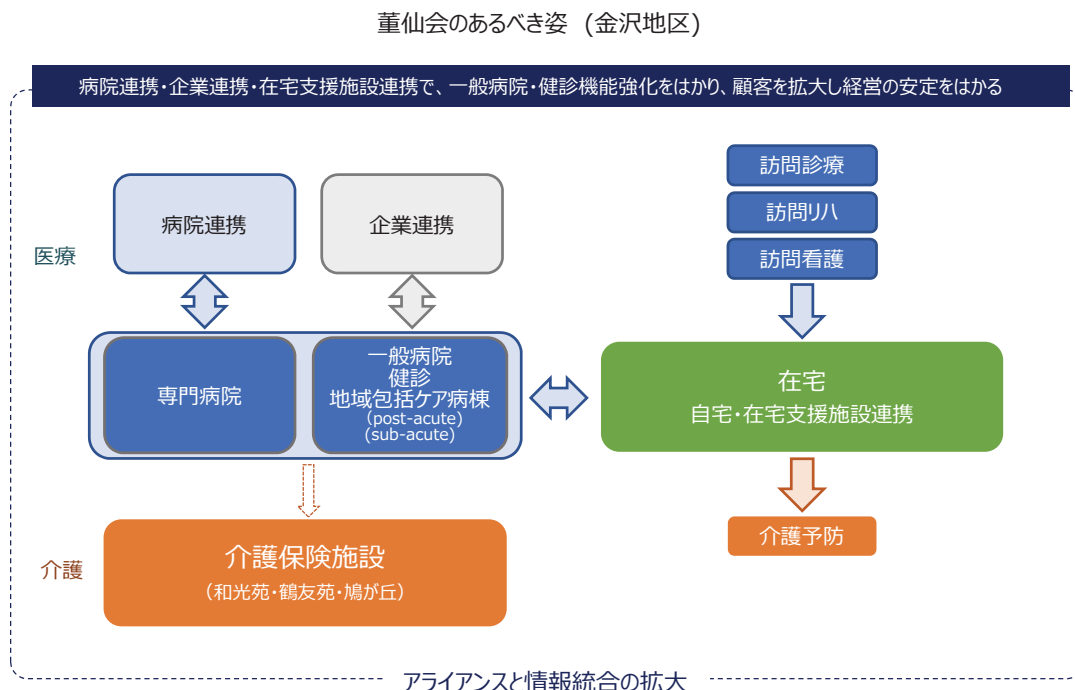
住み慣れた地域で、納得できる高度な医療・手厚い看護・きめ細かな介護サービスを受けられるようにする。

職員は既存の施設・サービスを最大限に活用し顧客の流出を防ぎ、けいじゅヘルスケアシステム内で完結するようにガバナンスと情報統合を強化する。



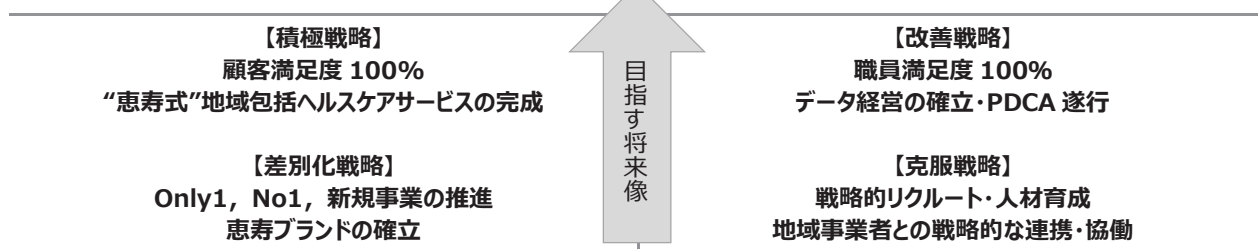
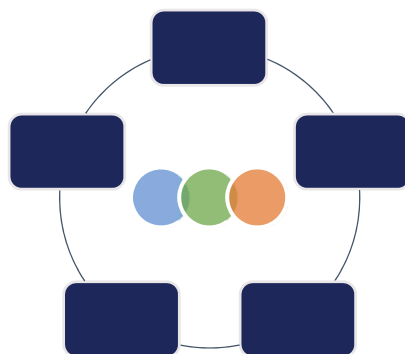
□ 金沢地区方針

病院連携・企業連携・在宅支援施設連携で、一般病院・健診機能強化をはかり、顧客を拡大し経営の安定をはかる。



■ 継続的基本方針を実現する方法

継続的基本方針と、現状の姿（SWOT 分析）のギャップを以下に示す。強みを活かし、弱みを補いながら 3 年間で目指す将来像に到達することを目標とする。



現状の姿

強み S	弱み W
<ul style="list-style-type: none"> ① 地域包括ケアをグループ内で提供可能 (医療・介護福祉・健診、居宅支援、サ高住、給食) ② 医療介護施設間で情報共有 (統合電子カルテ) ③ 地域最大級のサービス規模、専門スタッフ数 (リハビリ、産科、家庭医医療、麻酔科医) ④ Only1 のサービス (コールセンター、樂のり君、ユニバーサル外来、医療介護統合電子カルテ) ⑤ 地域 No1 の実績 (無痛分娩、内視鏡、*血液・呼吸器内科、心臓血管外科、糖尿病内科、乳腺外科) ⑥ 能登中北部エリア+金沢* で事業展開 ⑦ 地域との強いつながり (行政、医師会、商工会) ⑧ 全国区の知名度、リーダーシップ 	<ul style="list-style-type: none"> ① 顧客の増加が乏しい ② 職員への周知、職種間の連携が不十分 ③ 建物・設備が老朽化している施設がある ④ けいじゅヘルスケアシステム内で完結させる意識が不十分 ⑤ 慢性的な人材不足 (医師、看護師、介護職、薬剤師等) ⑥ 経営意識、コスト意識が低い ⑦ IT データの活用・分析力が弱い ⑧ 急性期指標が低下 (機能評価係数Ⅱ、DPC 単価) ⑨ 情報セキュリティ対策 ⑩ けいじゅヘルスケアシステムには訪問看護ステーションがない ⑪ これからの高齢者に対する新しいサービスが不十分 ⑫ 恵寿ブランディングが不十分
機会 O	脅威 T
<ul style="list-style-type: none"> ① ターゲット顧客 (高齢者) が減らない地域 ② 事業内容と政策・制度の方向性が合致 (地域包括ケア、QOL、タスクシフト) ③ 競合相手が増えない地域 ④ 事業エリアの拡大が可能な地域 (金沢) ⑤ 石川県ドクターヘリ 2018 年運用開始 	<ul style="list-style-type: none"> ① 労働人口の減少・少子高齢化 ② 医療・介護報酬の抑制 ③ 地域・行政からの過大な要請・期待 ④ 既存競合の事業力が向上 ⑤ 原発 30km 圏内 (能登地域)

■ 継続的基本方針の実施計画

2020 年度までの 3 カ年実施計画を以下に示す。

初年度は主に改善・克服戦略、次年度は積極・差別化戦略を遂行し、3 年後の目指す将来像を完成させる。

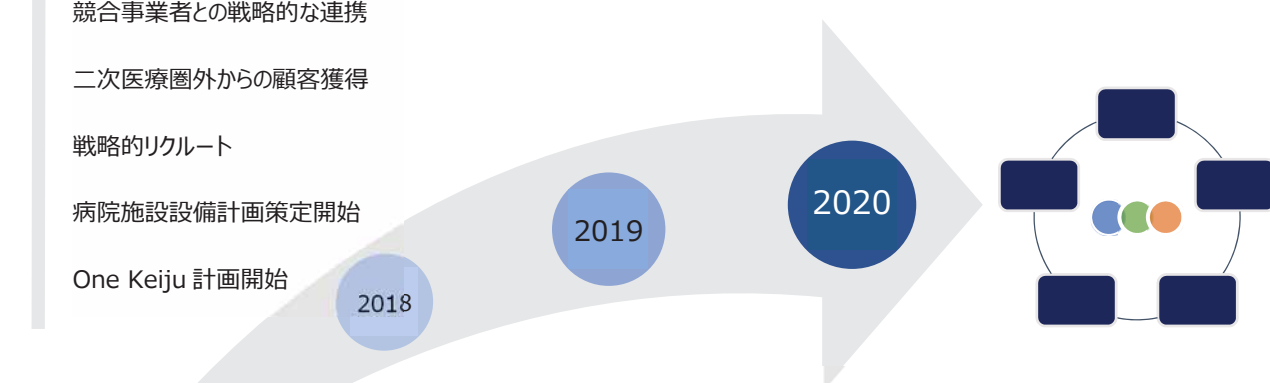
2018（改善・克服） 「創れ、恵寿バリュー！」 社会構造の変化への対応を 見据え、職員と顧客が共有 できる価値を創造する

- 恵寿式チーム医療の完成
- 職員満足度 100%達成
- データ経営の確立
- 高度医療・専門医療の強化
- PHR 事業の拡大
- 顧客に選ばれる仕組みづくり
- 他病院・施設への流出防止
- 競合事業者との戦略的な連携
- 二次医療圏外からの顧客獲得
- 戦略的リクルート
- 病院施設設備計画策定開始
- One Keiju 計画開始

2020 「経営品質の高さ」 × 「顧客による社会的評価」 恵寿ブランド力の向上

- ①満足度を 100%にする
- ②One Keiju をつくる
- ③生きるをデザインする
- ④質を上げる
- ⑤新サービスを創出する

上記 5 施策の完成
→「石川＝恵寿」の完成



2019（積極・差別化）

- 病院・施設の設備計画の完成
- 七尾+金沢 One Keiju（統合戦略）による
経営資源の最大活用
- 顧客満足度 100%達成
- サービスの質の進化によるシェア拡大
- 産学連携コラボレーションによるサービス開発

■ 継続的基本方針 戦略目標



2020 年度までに継続的基本方針を達成するための 5 施策

- ①満足度を 100%にする
- ②One Keiju を目指す
- ③生きるをデザインする
- ④質を上げる
- ⑤新サービスを創出する に対する具体的な戦略目標例を示す

財務の視点

1. 顧客の生涯健康維持をサポート

リテンションマーケティングを行い既存利用者との結びつきを強めるとともに、新規利用者の獲得を行う

患者、利用者とのつながりを強化するために PHR を拡充する

2. 将来にわたる事業の発展、地域への貢献

経営の健全性を維持するため、生産性を向上させ、医業収入の黒字化、医業外収入の増加を目指す

サービスの質で競合を超越し、金沢での拡大、能登での充実を図る。人件費率（医療、介護）の適正化を行う

顧客の視点

1. 顧客満足度 100%

顧客の価値観の変化に則した魅力ある医療・介護施設群へとゼロからの転換を図り満足度 100%を目指す

2. 職員満足度 100%

職員の健康と幸せを築くために「健康経営×キャリアデザイン・プロジェクト」を推し進め満足度 100%を目指す

3. 患寿ブランドの創出

選ばれ続けるために、「七尾=患寿」、「石川=患寿」となるようなコーポレートアイデンティティ=ブランディングの完成を目指す

4. “患寿式”地域包括ヘルスケアサービスの完成

徹底した顧客満足度向上のためにサービスをいつでも 安心して受けられるようにする

「どうすれば利用してもらえるのか」「継続的な利用をどうやって実現するか」をデザイン思考で完成させる

5. 専門技術・知識、現場力の蓄積 成長・やりがいの実感

医師・看護師・その他医療技術職の専門性を発揮するためにタスクシフティングやキャリアチェンジを推進する

業務プロセスの視点

1. 顧客参画型患寿式チーム医療の完成

既存サービス+患者利用者の参画、職員のお互い様意識を醸成（多様性理解）し合う環境作りを行う

2. 事業競争力の強化・差別化

急性期機能・高度医療（救急・がん・脳卒中・心臓・呼吸器外科・整形外科・健診）を強化するために医師の招聘を（3年後100名体制）行い患者・利用者の流出を防ぐ

3. 経営資源の効果的・効率的な運用

経営資源「人・物・金・情報・心」の効率的な運用を行い、生産性の向上を目指す
限られた人的資源を最大限に活かす統合戦略を行い遠隔診療・テレワークなどの働き方改革を行う

4. Only1、No1 領域の確立

恵寿の絶対的な強みである「医療介護統合電子カルテ」、「セントラルキッチン」、「コールセンター」、「樂のり君」、「ユニバーサル外来」、「産科」、「家庭医療」、「無痛分娩」、「内視鏡」、「血液内科」、「乳腺外科」、「呼吸器内科」、「心臓血管外科」、「糖尿病内科」、「回復期リハビリテーション」を確立し収益事業化する

5. データ経営の確立・PDCA 遂行

原価管理、DPC ベンチマーキング、Quality Indicator などデータに基づく経営を確立する

6. 将来への事業基盤の構築

老健施設、金沢病院の改修計画、病床・病棟の再編・医療機器、IT 投資計画等 BCM として病院・施設設備計画を完成させる

7. 収益を生むイノベーションの創出

企業・大学・研究機関との AI、IoT を利活用した「既存サービス×医療」コラボレーションによる収益を生む新たなサービス開発を行う

学習と成長の視点

1. 事業環境の精緻な分析と情報共有

競合環境やマーケットシェアを分析し、既存顧客の流出防止と新規獲得を行う

2. BSC 目標管理の徹底革新とチャレンジ精神の醸成

全ての職員が、法人のミッション・ビジョン・戦略テーマを納得・理解し BSC の定着と PDCA を推進する
職員自身が自発的に考え行動することを目指す

3. 戦略的リクルート・連携・協働

戦略的なブランディング、広報による優秀な医師・看護師・介護職獲得のためのリクルート活動を行う
競合事業者との（急性期リハビリ、介護事業者、小児科、婦人科、精神、歯科）Win-Win な連携を行う

4. 人材マネジメントの強化

キャリアビジョンの提示、全体最適を図る人材育成を組織を挙げて取り組み次世代リーダーを育成する

董仙会本部

董仙会本部

- 常務理事 ■ 本部長
神野 厚美 進藤 浩美

■ 2018 年度のトピックス、実績

国際病院連盟最高位賞特別賞を受賞した。

下記は今年の患寿バリューの一部抜粋である。

受賞・認証	国際病院連盟最高位賞特別賞、健康経営優良法人 2019、スマートミール（健康な食事・食環境認証）、日本赤十字社銀色有功章、かがやき健康企業、外国人患者受入れ認証・ISO 更新
スタート	介護医療院、患寿総合病院訪問看護ステーション、育 Café、確定拠出年金 iDeco、ベンリー七尾店、窓清掃ロボット、全職員血液検査、カルテコ(健診・画像・ペピー)
導入・購入	BSC、ブラックジャックセミナー、入所セット、法人内電話 ひかり回線、ピクトサイン付き床頭台、EVE DPC 分析ソフト、新マンモ、新結石破碎装置、最新 血液浄化機器、新 仮想システム

■ 事業報告

- ① 支出統制をはかり、契約 5 年(本館建設 5 年)の内容を見直し、経常利益の黒字化を実現した。
- ② 質の向上、職員確保のための第三者評価、認定を目指し、国際病院連盟最高位賞特別賞を受賞、健康経営優良法人 2019 も認定された。
- ③ 日本で他に類を見ない仮想システム導入から 5 年、金沢病院も含めたサーバーのリプレースという大事業を無事完了させることができた。
- ④ キャリアデザインプロジェクトをさらに進め、E-learning25 講座、Case Study6 講座を制作し、2019 年度から開始するハイブリット型研修準備をした。
- ⑤ 本格的 BSC 導入年として、そのアクションプランが TQM にリンクするように大会を実施した。
- ⑥ 財務部では、原価管理ソフトメディカルコードによる分析を開始し、総務部では給与・人事ソフトの全面バージョンアップをはかり、医師の出退勤管理も開始した。企画部は、印刷発注方法を見直し、大幅なコスト削減をはかった。生活支援部を新設し、フランチャイズでのベンリー七尾店をオープンさせた。

総務部・総務課

■ 部長

松田 久良

■ 2018 年度のトピックス、実績

昨年に引き続き職員の健康と健全な経営を維持していく体制構築のため、第三者評価認定として、『いしかわ健康企業宣』、『かがやき健康企業』の認定を受けた。経済産業省の『2019 健康経営優良法人ホワイト 500』も引き続き認定を受けた。また、ストレスチェックの受検率は 90.2%（昨年 71.4%）とストレスへの職員自身の意識向上が見られた。

	2017 年度	2018 年度
ストレスチェック受検率	71.4%	90.2%
精密検査受検率	43%	52.6%
運動習慣者比率	13.4%	14.2%

■ 事業報告

- ① 2019 健康経営優良法人ホワイト 500 の認定
職員の健康診断受診率 100%などをクリア
- ② BCM Ver.3.0 にバージョンを改定した。
地震に加えて、大雨、暴風、豪雪、低温の対策も追加し、資料も充実させた。
- ③ 職員の老後のニーズの多様化に応えるため、確定拠出年金規約を変更し、個人型 DC の導入を実現した。
- ④ 業務の生産性向上のため、給与人事システムの変更に着手し、給与システムの移行を果たした。
- ⑤ 鳩ヶ丘の空調、照明設備更新にともない、補助金を最大限に利用し、実質負担額を大幅に軽減することに成功した。

財務部

■ 部長

安井 智美

■ 2018 年度のトピックス、実績

医療法人は医療法の改正により、公認会計士又は監査法人の監査を受けることが義務付けられた。以前より任意監査を受けていたことから基本的な体制は整っており、スムーズに法定監査へと移行する事が出来た。

	監査内容	担当法人
4 月	期中監査	監査法人
5 月	税務処理	税理士法人
5 月	期末監査	監査法人
10 月	期中監査	監査法人
11 月	帳簿チェック	税理士法人
11 月	期中監査	監査法人
2 月	帳簿チェック	税理士法人
2 月	期中監査	監査法人
3 月	期中監査	監査法人
3 月	棚卸実査	監査法人

■ 事業報告

- ① トピックス記載の法定監査移行に伴い、内部統制のチェックを受けたり、従前の資料のブラッシュアップや追加資料の作成を行う事で、より透明性の高い経営状態で管理することが出来た。
- ② データ経営確立のために昨年度導入した、原価管理ソフトの検証作業を完了し、恵寿総合病院事務部と協力し、来年度目標ヒアリングでデータを利用することが出来た。
- ③ 職員の労働負担軽減と利用者の利便性のために、恵寿総合病院・恵寿金沢病院・ローレルクリニックで導入済みの入院セットを介護施設にも展開し、鳩ヶ丘・和光苑・鶴友苑にも導入した。
- ④ 財務部内のタスクシフト、タスクシェアに取り組んだことにより、経理課全体では実労働時間が 395 時間（年間）減少し、用度課全体では人事異動に伴う業務量の増加があったにもかかわらず、実労働時間は 23 時間（年間）の増加に留まった。

財務部（経理課）

■課長

河合 隆志

■2018年度のトピックス、実績

会計監査が、任意監査からなる法定監査へ移行した。

ISO 内部監査の主管部門として内部監査を実施。

月	内部監査項目
6月	選考試験実施プロセス、応研入力およびチェック体制
7月	職員異動手続き、月次試算表作成
8月	用度課請求書データ受入、新規導入進捗管理
9月	給与計算、投資予算管理
10月	契約書管理、メディカルコードの運用
11月	補助金申請管理、固定資産管理：台帳登録
12月	人事システム移行、固定資産管理：更新時期
1月	固定資産管理：台帳登録

■事業報告

- ① 退職所得の源泉徴収票・特別徴収票および退職所得申告書を電子化した。
- ② 財務部内人事交流を実施し、相互評価することにより業務改善が図られた。
- ③ 労働生産性向上により実労働時間 395 時間の削減
- ④ 第 60 回全日本病院学会 in 東京に共同発表 1 名。

財務部（用度課）

■課長

池岡 一彦

■2018年度のトピックス、実績

医療機器購入で大幅な予算削減を行った。透析装置、破碎装置の更新導入や年間購入計画に基づく3病棟ナースコール、本館4階心電図モニタの計画的更新を実施した。

月	導入先	品名
5月	介護	入所セット（老健3施設）
6月	金沢	内視鏡システム
7月	ローレル	透析機器(IHDF、on-lineHDF 38台)
9月	本院	電子ピクトグラム付き床頭台（423台）
10月	本院	自動心臓マッサージシステム
1月	本院	結石破碎装置
3月	本院	心電図モニタリングシステム（18式）
	本院	3病棟ナースコール
	金沢	麻酔器システム
	介護	申し送りシステム（老健3施設）

■事業報告

- ① 医療機器購入額を概算金額の約 63.1%に削減。
- ② ナースコール、病棟モニタの計画的な更新による業務改善、購入価格削減。
- ③ グループ施設に入所セット導入。（平均導入率 和光苑：60.1%、鶴友苑：29.7%、鳩ヶ丘：44.5%）

企画部

- 常務理事 ■ 本部長
神野 厚美 進藤 浩美

■ 2018 年度のトピックス、実績

課員の人数減があったが、財務の視点で貢献すべく、製作物の徹底的な内製化を行った。内製化の一環として、けいじゅヘルスケアシステムのホームページを Wordpress で作成した。他の製作物に関しては以下に示す。

刊行物	業績集、広報誌（年 4 回発行） マンズリーター（毎月発行） 董仙会中期計画 董仙会キャリアデザインプロジェクト 董仙会 BCM Keiju Recruiting Book
メディア	医療情報ラウンジ放映用ラジオ映像
学会関連	発表用ポスター
リクルート関連	パンフレット、装飾用ポスター、のぼり旗

■ 事業報告

- ① 業績集を 6 月の理事会・評議員会までに発刊できた。
- ② 広報誌「患寿」については、定期発行以外に、初めての特集号を発刊した。医師向けマンズリーターも毎月発行した。
- ③ 本院の医療情報ラウンジの活用として、ラジオななお「安心マイライフ」の再放送を実施した。
- ④ 24 回のプレスリリース、30 回のマスコミ対応、ホームページ Facebook の更新、ラジオななお番組「安心マイライフ」の企画・制作協力、各種広告制作を実施した。
- ⑤ リクルートイベント対応のパンフレット、各部署のパンフレット作成、ちらし作成を実施した。
- ⑥ サーマンプロジェクトとして、初めてブラックジャックセミナーを誘致し、能登地区の高校生約 30 名が参加した。その他、七尾高校、羽咋高校とのコラボイベントを実施し、事務職のインターンシップを初めて実施した。
- ⑦ 職員に対しては、カレンダー制作、学会ポスター制作支援を行った。

情報部・情報管理課

- 部長 ■ 課長
山野辺 裕二 小澤 竹夫

■ 2018 年度のトピックス、実績

5 年に一度のサーバーリプレイスという大事業を行った。けいじゅヘルスケアシステムとしては、情報共有を第一と考えるため、今回のサーバーリプレイスは法人全体への貢献として非常に大きいものであった。日本でも他に類を見ない仮想環境でのサーバー更新が無事完了した。

■ 事業報告

- ① 従来までの情報基盤を刷新し、最新のハイパーコンバードインフラストラクチャーでシステムのリプレイスを行った。
- ② 画像診断システムをソフトウェアサービス社の Seavo に切り換えた。電子カルテと同一メーカーなのでシステムの親和性が向上し、システムにかかるトータルコストを抑えることにも成功した。
- ③ 患寿金沢病院のサーバーリプレイスに伴い、データベースを患寿総合病院の仮想サーバーに結合した。これにより、患寿金沢病院のサーバーリプレイス費用を抑え、サーバー統合による保守費用を削減した。
- ④ 訪問看護ステーション用のシステムを導入した。
- ⑤ リモートアクセスで使用していたゲートウェイサーバーをリプレイスした。これにより、Windows10 による新しいクライアントから利用できるようにし、患寿金沢病院の医師も使用できる環境も整えた。

生活支援部

■部門代表者

梅田 信一

■2018年度のトピックス、実績

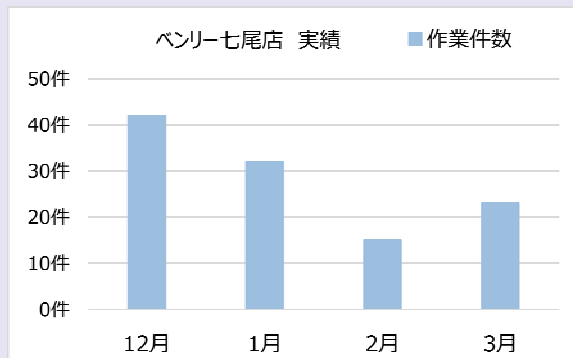
生活支援事業としてベンリー七尾店の開店を行った。

5月より開店準備、12月に業務開始した。

人員：スタッフ募集、スタッフトレーニングを修了

店舗：旧診療所を改装

車両：2台



■事業報告

- ① 董仙会本部に新部署として生活支援部を設置した。業務内容として、法人施設管理（FM 業務）と生活支援事業としてベンリー七尾店をオープンした。
- ② 法人全体の FM 業務を管理した。重点項目として
 - a) 介護医療院鳩ヶ丘の省エネ対策として空調設備更及び電燈の LED 化を行った。
 - b) 電話回線をひかり回線に切り替え、法人間の通信料金が無料となった。さらに BCM・BCP 対策としてひかり電話障害時のアナログ回線との二重化を図った。
 - c) 本院の床頭台にピクトサイン機能を追加、これを機に全病棟の床頭台、ロッカーの統一を行った。
- ③ ベンリー七尾店は、寄付行為変更に伴う申請書類の整備からはじまり、スタッフ募集・研修受講、店舗準備、車両準備、資機材準備を経て、12月4日にオープンすることができた。
- ④ 外部見学者対応支援としてスケジュール調整・管理などを行った。
- ⑤ 本部の業務支援として、2019年度事業計画、キャリアデザインプロジェクトなどのプロジェクトに参加した。

教育研修委員会

■委員長

進藤 浩美

■2018年度のトピックス、実績

新たに部長研修を開始した。

	開催日	内容
第1回	6/11	2017 人事評価結果 2018 計画確認
第2回	10/22	目標管理の今後・恵寿バリュー
第3回	12/17	2019 理事長方針・董仙会 BSC

■事業報告

- ① 新たに部長研修を開始し、課長研修、係長研修と順次法人方針が伝わることを目指した。
- ② リクルート対策として、内定者のつどいを10月TQM時と12月に実施し、3月就職前研修を初めて1日とした。
- ③ キャリアデザインプロジェクトで製作中の E-learning を試用した。

TQM 委員会

■委員長

進藤 浩美

■2018年度のトピックス、実績

TQMと2018年BSCアクションプランの連動を試みた。

視点	戦略目標	テーマ数
財務	収益増 経営資源最大活用	6
顧客	満足度 100% 新サービス	11
業務	急性期医療強化	7
学習と成長	人材育成 チャレンジ	6

■事業報告

- ① 前期は、10/20 コスモアイル羽咋で、特別審査員 能登共栄信用金庫の鈴木正敏 新理事長を特別審査員にお迎えし実施した。進捗管理を強化したが、結果まで出せていないテーマが散見された。
- ② 後期は、3/9 七尾サンライフプラザで、特別審査員 北陸銀行 飛要七尾市店長をお迎えし実施した。

広報委員会

■委員長

神野 厚美(オブザーバー) 進藤 浩美

■2018年度のトピックス、実績

企画一覧

- ・広報誌記事
- ・マンスリーレター記事
- ・ラジオななお「安心マイライフ」CM企画
- ・董仙会イベント・機器購入と職員への周知

■事業報告

- ① 董仙会広報についての情報収集・計画立案強化のために、メンバー変更を実施した。本部からは、用度課長(購入機器・備品の情報)、本院からは、管理課長(本院研修会・イベント情報)、金沢病院からは、橋本委員(金沢情報・制作協力)、介護からは、内田副部長(董仙会・徳充会情報)とした。
- ② 第1週に委員会を開催し、月末刊行物の生産性を上げた。

福利厚生委員会

■委員長

安井 智美

■2018年度のトピックス、実績

「健康増進」をキーワードに加え、イベントを企画した。

【新規事業】

	ソフトバレーボール大会		睡眠セミナー
開催日	11月11日(金)	七尾	9月28日(金)
参加	10チーム・59名	穴水	1月16日(水)
優勝	teamヒラメ(和光苑)	金沢	3月29日(金)

■事業報告

- 7月：七尾港まつり総踊り
→董仙会全体で約160名参加
- 12月：けいじゅヘルスケアシステム大忘年会
→董仙会377名、徳充会123名
パートナー企業他45名、合計545名
- 勉強会：確定拠出年金説明会、パソコン教室他

病院・施設委員会

■委員長

吉田 茂和

■2018年度のトピックス、実績

施設利用者の利便性向上のため、病院で採用している入院セットを介護施設にも導入した。(入所セットの導入)

利用率	和光苑	鶴友苑	鳩ヶ丘	平均
中間	66.3%	41.2%	45.0%	50.8%
期末	70.3%	41.2%	46.0%	52.5%

■事業報告

- ① 患者・利用者のサービス向上に向けた、情報共有を毎月実施した。
- ② 本年度は、職員満足度100%を目指すための、入所セット導入、休日勤務のシフト調査などの働き方の検討、ノーリフト介護の模索、外国人職員雇用に向けた職員教育、恵寿フィロソフィの周知への取り組み等を行った。

外国人職員受入れプロジェクト会議

■委員長

進藤 浩美

■2018年度のトピックス、実績

就職内定状況 2019年3月現在

職種	人数(採用予定月)
IMS(看護師)	1(2019年4月)
瀋陽(看護師)	3(2019年4月)、2(2020年4月)
インドネシア(介護)	2(2019年10月)

■事業報告

- ① 中国人看護師プロジェクト
IMS看護師は、今年度より、希望者がいれば紹介という形式となった。瀋陽看護師は、6名のうち4名リタイアとなり、新規に3名確保した。
- ② 介護人材確保プロジェクト
インドネシアプロジェクトを開始し、初めて現地に出張し、2名内定した。

地球温暖化対策推進本部会議

■委員長

梅田 信一

■2018年度のトピックス、実績

介護医療院鳩ヶ丘の省エネ対策にて空調機器更新、電燈のLED化実施しCO₂の排出を削減

削減効果	削減効果		
	エネルギー削減量	エネルギー削減率	Co ₂ 削減量
電力	17.45KL	5.8%	43.4
燃料・熱	7.34KL	2.5%	19.8
合計	24.79KL	8.3%	63.2

■事業報告

- ① 中部経済産業局へ法人施設定期報告書提出。
- ② エネルギー管理者を恵寿総合病院事務長とする。
- ③ 法人各部署、省エネ対策実施。
- ④ 委員会メンバー構成を見直し、各事業所代表者を専任。

けいじゅグリーン会議

■委員長

梅田 信一

■2018年度のトピックス、実績

董仙会各事業所（恵寿金沢病院除く）の清掃をオリックスファシリティーズに業務委託して法人本部で管理している。

① 恵寿総合病院の落下針（清掃時発見）が増加、病院全体で対策検討し実施

	2016年度	2017年度	2018年度
落下針件数	15	16	20

■事業報告

- ① 清掃会議からグリーン会議に委員会名称の変更
- ② 年間清掃計画に基づく、実施について承認制度へ移行
- ③ 新規取組として、窓ふきロボットを導入し高所作業の安全性の確保、作業の利便性向上（恵寿総合病院・和光苑）次年度以降法人事業所で使用していく

けいじゅFM委員会

■委員長

梅田 信一

■2018年度のトピックス、実績

介護医療院鳩ヶ丘の省エネ対策にて空調機器更新、電燈のLED化実施

削減効果	現状	削減効果	
	エネルギー使用量	エネルギー削減量	削減率
電力	214.30KL	8.58KL	2.9%
燃料・熱	84.70KL	7.34KL	2.5%
合計	299.00KL	15.92KL	5.3%

■事業報告

- ① 法人事業所各種法定点検実施
- ② 本院・本館の非常用電気設備点検を実施
- ③ 七尾市上下水道課と協議し恵寿総合病院内の井水利用について災害時の飲料として承認を得て、BCMに井水利用時の手順書を作成し、訓練を行った
- ④ 介護医療院鳩ヶ丘の個室化改修
- ⑤ 和光苑 夏の暑さ対策 ドームの遮光
- ⑥ 法人内の厨房機器の診断点検実施
- ⑦ 本館 免震装置5年点検

けいじゅヘルスケアシステム給食戦略会議

■委員長

進藤 浩美 神野 厚美(オブザーバー)

■2018年度のトピックス、実績

主な購入機器

本院	再加熱予備カート 給食サーバー
金沢	温冷配膳カート
鶴友苑	食器
デリカサブライセンター	蛇口の節水コマ 魚の浸漬室、屋外ゴミ保管室

■事業報告

- ① グルメプラザけいじゅが「健康な食事・食環境（スマートミール）」に認証された。
- ② 「おいしいお魚」を目指して、デリカサブライセンターに魚専用の浸漬室をつくった。
- ③ 全施設食器の更新について、順次実施した。
- ④ 給食サーバーの更新を実施。
- ⑤ 米価値上げ対応を実施

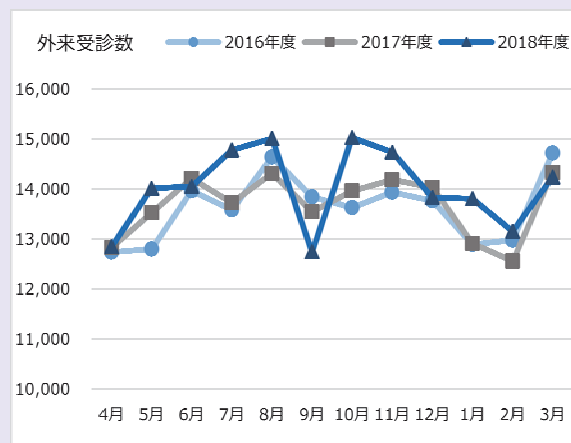
恵寿総合病院

■ 病院長

山本 健

■ 2018 年度のトピックス、実績

- ① 外来患者数は増加。入院患者数は減少、平均在院日数も短縮。手術件数、全身麻酔件数は増加した。
- ② 外国人患者受入医療機関認証を更新した。



■ 事業報告

- ① 外来患者数 168,220 人と前年度比で 3%増加した。在院患者はやや減少したものの、新入院患者は 3%増加しており、平均在院日数も短縮した。手術件数（小手術含む）は 4,385 件と 4%増加した。それに伴い全身麻酔件数 927 件と高い実績となった。紹介患者数 4,614 人と前年度比で 3%増加した。逆紹介患者数も増加した。
- ② 尿路結石破碎装置を更新。1 月より稼働させた。国内導入 1 号機で体格の大きい方や深部の結石に対しても効果的な治療ができるようになった。マンモグラフィ装置はトモシンセシスという断層撮影機能が使用可能となり、高濃度乳腺などで見えにくかった病変も見つけやすくなった。トモシンセシスを組み入れた新しい乳がん検診メニューも追加になった。血液浄化センターでは、オンライン血液浄化システムの導入を行った。
- ③ 年間延べ 325 名の外国人患者が受診。職員による通訳だけでなく、電話通訳サービスの活用により受け入れ体制の強化を行った。外国人患者受入医療機関認証制度の更新審査を受審。2 月に認定を受けた。

診療部

■ 診療部長

山崎 雅英

■ 2018 年度のトピックス、実績

- ① 外来化学療法の推進、延べ患者数の大幅増
- ② 新入院患者数の増加
- ③ 免疫療法による irAE 対応における院内チーム医療開始
- ④ 自動心臓マッサージシステム LUCAS 導入
- ⑤ 医師の働き方改革の一環として、出退勤管理システムの導入、時期をずらした長期休暇取得の推進



■ 事業報告

- ① 外来化学療法を診療部全体で推進し、外来化学療法患者数が大幅に増加（1,406 件(2016 年度)→1,727 件(2017 年度)→2,160 件(2018 年度))
- ② 免疫療法による irAE(免疫関連副作用)発症に対し、複数の診療科による irAE 対応院内チームを立ち上げた。
- ③ 自動心臓マッサージシステム LUCAS3 を導入し、院内発症・救急搬送心停止患者における救命率の向上を認めた。
- ④ 医師の働き方改革の一環として、出退勤管理システムを導入し、労務管理・健康管理に生かすこととした。
- ⑤ これまで夏季に限っていた「夏季休暇」を 1 年を通じて取得できるようにすることにより、各医師が時期を分散して長期休暇を取得可能となった。
- ⑥ 今後は他職種とのタスクシェア・タスクシフトを推進し、より濃厚かつ親切な患者診療を進めたい。

形成外科

■ 所属医師

山野辺 裕二

■ 2018 年度のトピックス、実績

- ① 2018 年度の営業日 243 日中、234 日の外来診療を実施（休診 9 日）。手術実施件数は 619 件。
- ② 受け入れ紹介患者数が、2015 年度の 66 件から 59% 増の 105 件に増加。



■ 事業報告

- ① 整形外科に手外科を専門とする医師が着任したため、従来は形成外科で担当していた手外科の手術の一部を整形外科で担当するようになった。
- ② 介護施設利用者などによくみられる、高齢者の趾の爪が高度に肥厚した例について、ウレパール軟膏による軟化ののち痛みなく抜爪できる手法を取り入れた。
- ③ 待ち時間が長くなることによる新患の受診断念および、当科へのクレーム投書をゼロとする目標はほぼ達成できた。
- ④ 公立能登総合病院形成外科からの紹介患者を受け入れた例があり、今後相互連携が進むことが期待される。
- ⑤ 従来から引き続いて、常勤の形成外科専門医確保のための活動を継続していきたい。

整形外科

■所属医師

森永 敏生、山本 大樹、引地 俊文

■2018年度のトピックス、実績

外来患者数、手術件数の増加を認めた。大腿骨近位部の骨折をはじめ四肢の骨折による観血的手術が増加している。また、手根管症候群の開放手術など手の手術にも力を入れている。



■事業報告

- ① 手術件数の増加に伴い、外部医療機関の医師とも連携を取りながらあらゆる手術に対応した。
- ② 前年度に引き続き、骨粗鬆症患者の受け入れを積極的に行った。薬剤師、看護師、リハビリ、管理栄養士、社会福祉士など多職種からなるチームを結成し、リエゾンサービス提供のため研修会等への参加を行っている。

内科

■所属医師

宮森 弘年、宮本 正治、山崎 雅英、小西 正剛、吉田 晶代、林 憲史、山崎 恵大、加賀谷 侑、酒井 珠美、加瀬 一政、谷村 航太、赤崎 恭太

■2018年度のトピックス、実績

- ① 外来化学療法の推進、増加。
- ② 3年ぶりにJMECCを開催。
- ③ 内科系カンファレンス継続、他職種入院カンファレンスの継続・充実による入退院支援の強化。



■事業報告

- ① 外来化学療法を推進、件数増となった。495件(2016)→654件(2017年)→695件(2018年)
- ② JMECC(内科救急・ICLS 講習会)を開催し、臨床研修医、内科専攻医に対し心停止時のみならず、緊急を要する急病患者に対応できるよう救急蘇生講習会を実施。
- ③ 論文3編(共著)、学会発表14演題発表
- ④ 毎朝、内科・循環器内科・消化器内科・家庭医療科との合同カンファレンスを継続して実施し、個々の医師の専門知識のブラッシュアップを図るとともに、患者さんの主治医を分担し専門的診断・加療を実施した。
- ⑤ 毎週入院患者さんに関する多職種カンファレンスを行うことで、入院時より治療方針・退院支援に向けた意思統一を図ることができた。
- ⑥ 専門性の高い臓器別内科、他診療科との密な連携による高度な診療ができるよう推進した。
- ⑦ 今後は「総合内科外来」を設置し、プライマリケアを行うとともに、患者さんの適切な診療科への連携を図っていききたい。

第2章 法人方針・事業報告（恵寿総合病院）

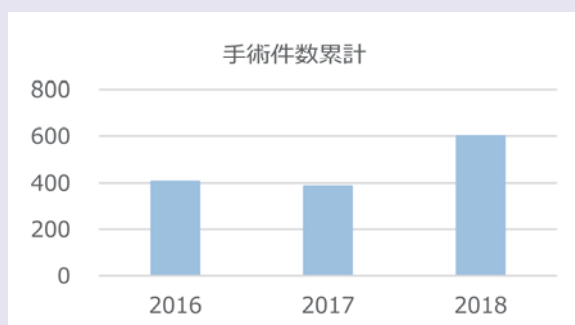
消化器内科

■所属医師

瀧崎 宇一郎、西谷 雅樹、松田 昌悟

■2018年度のトピックス、実績

- ①外来患者数、入院患者数はいずれも昨年を上回った。
- ②論文掲載（Gastroenterology 3編、PloS One、Internal Medicine、Digestive Endoscopy、JMA）
- ③国立国際医療研究センター国際感染症センター 忽那賢志先生らと日本臨床画像学会を設立し、第1回学術集会を開催した。



■事業報告

- ① 内科（血液内科、腎臓内科、循環器内科）、家庭医療科および他診療科との緊密な連携のもとに的確な診断、専門的な治療を行っている。
- ② 今年度も講演会・勉強会を開催した。
講師：日本大学医学部消化器肝臓内科学教授 後藤田卓志、近畿大学医学部 内科学（消化器内科部門）教授 榎田博史、大船中央病院院長 須藤博、横浜市立大学肝胆膵消化器病学教室教授 中島淳、京都大学医学部附属病院 内視鏡部講師 松浦稔、慶應義塾大学医学部 内科学（消化器）教授 金井隆典先生をお招きして講演会・意見交換会を行い、最新の情報や治療について学んだ。
- ③ 能登地区において専門的な治療を行うセンターとしての役割を担っている。消化器内科として地域に根ざした信頼される医療を提供していくと同時に、今後も積極的に先進的な治療を導入して地域医療に貢献できるように努力していきたい。

産婦人科

■所属医師

新井 隆成、安田 豊、高多 佑佳、宮田 康一、尾山 量子、東 恭子

■2018年度のトピックス、実績

- ①産婦人科医師数の増加
- ②婦人科手術数の増加、腹腔鏡下手術の開始
- ③医療安全実績の維持



■事業報告

- ① 産婦人科は、「家族みんなの医療センター」という恵寿ならではの体制の中で女性医療の一端を担っている。目指すのは、多職種で協働した安全な医療の提供と包括的医療サービス体制の充実である。
- ② 若手の女性医師が2名増員し、産婦人科医師が6名となり、家庭医療科と協働する家族みんなの医療センターは最大10名体制となった。特にこの体制が周産期医療にもたらす効果は高く、新生児搬送ゼロという目標達成が5年連続となった。また、麻酔科との協働によって、無痛分娩が安全にできる石川県の代表的施設となっている。一方、婦人科手術については、件数が増加しただけでなく、周術期における合併症に関して極めて安全な水準が維持されている。さらに、新たに腹腔鏡下手術が開始された。
- ③ 能登で暮らす女性が充実した医療を可能な限り能登で受けられるように、今後ますます整備を進めていきたい。

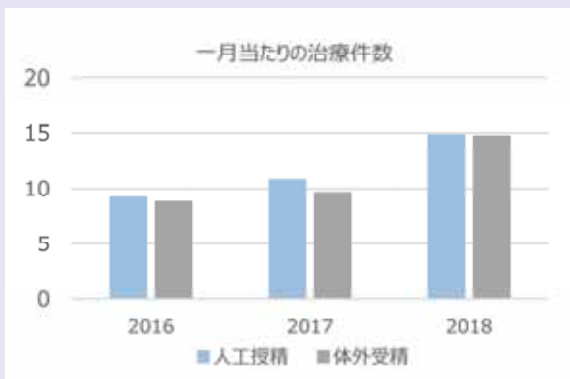
不妊外来

■所属医師

小濱 隆文

■2018年度のトピックス、実績

人工授精、体外受精の2016～18年のそれぞれの後期の月当たりの件数は AIH（9.2、10.8、14.8）/月、IVF（8.8、9.6、14.7）/月であり、明らかに増加している。代替医療は、最近の妊活の時流に乗っており、生殖学会での発表件数が増加している。



■事業報告

- ① 体外受精件数に関しては、人工授精6カ月を終了後のステップとして体外受精となるケースが多い。とにかく人工授精の件数を増やすのが先決であると思う。（確実に増加している）
- ② 今後は月あたりの IVF 目標件数を 20 件とし、件数増加を図っていく。

耳鼻咽喉科

■所属医師

山田 和宏

■2018年度のトピックス、実績

手術件数が122件に増加。

（2016年度107件、2017年度100件）



■事業報告

- ① 2018年度実績
手術件数：122件
外来受診数：7,124名
初診患者数：1,084名
新入院患者数：101名
- ② 診断の精度を向上させるため、必要な検査を積極的に行った。
CT：281件(2016年度)→326件(2017年度)→336件(2018年度)
ファイバースコープ：1,249件(2016年度)→1,347件(2017年度)→1,387件(2018年度)
- ③ 引き続き、院内他科や各部署、金沢大学附属病院耳鼻咽喉科などの高次医療機関と連携をはかり、安全で適切な医療を提供するよう努めたい。

眼科

■所属医師

馬渡 嘉郎

■2018年度のトピックス、実績

紹介、逆紹介件数が400件以上であり、地域の医療機関の先生方との連携ができています。



■事業報告

- ① 白内障を中心に硝子体、眼瞼、緑内障の手術を提供している。高齢者にも対応する手術を行っている。
- ② 外来診療では特に緑内障の薬物治療の方法にこだわり、可能な限り負担にならない投薬、通院方法を提供している。

泌尿器科

■所属医師

川村 研二

■2018年度のトピックス、実績

泌尿器外来患者の平均年齢は2006年67.1歳、2018年71.5歳と高齢化している（ $P=0.0027$ ）。過去6年間の泌尿器科の手術件数は年間130～155件と安定、奥能登からの紹介患者が増加傾向にあり、今後も急性期医療を継続していくことが目標である。



■事業報告

- ① 手術件数の維持
昨年度の手術件数は147件、入院患者の平均年齢は70.6歳、男性比率は83.2%、入院患者に占める手術割合は58.1%であった。手術の質を維持して、患者さんに選ばれた。
- ② 学会発表・講演等
日本泌尿器科学会総会、日本クリニカルパス学会、日本医療マネジメント学会、日本内視鏡外科学会、日本癌治療学会等の全国規模の学会での発表を行った。（術後回復強化プロトコル、DPCデータ、感染症ESBL産生菌等）日本泌尿器科中部総会では会長を受賞、石川県立中央病院のパス大会で講演を行った。
- ③ 新規導入機器
昨年、導入した体外衝撃波結石破碎装置（ドルニエ社）で現在まで約20回の治療を行った。併発症を認めず、超音波焦点あわせにより、レントゲン被爆量が減少し、良好な治療成績である。

小児科

■所属医師

柳瀬 卓也、中谷 茂和、三井 善崇

■2018年度のトピックス、実績

外来患者数 6,030人→5,951人

平日外来 4,978人→4,983人

夜間休日時間外 1,052人→968人



■事業報告

- ① 一般小児科疾患をはじめ、小児内分泌、小児神経、小児循環器疾患についても専門外来として診療を継続している。

麻酔科

■所属医師

長谷川 公一、櫛田 康彦

■2018年度のトピックス、実績

①麻酔科管理手術件数 1,018件(前年度 855件)

②総麻酔管理時間 3,563時間(前年度 2,090時間)

③緊急手術割合 33%(前年度 30%)

④無痛分娩数 28件(前年度 25件)

⑤緩和ケアチーム対応患者数 34件(前年度 32件)



■事業報告

- ① 麻酔科管理件数の増加
麻酔科管理件数は約 20%増加。午前中からの手術に対応したこと、周術期管理システムによる入退室管理やスケジューリングの効率化が図られたことが要因と考えられる。
- ② 総麻酔時間の大幅増加
総麻酔時間は約 70%の大幅な増加。
手術件数の増加だけでなく、内視鏡手術など高度な手術が増加したためである。
- ③ 緊急手術割合の維持
麻酔科医を有効に配置し、緊急手術に対応できた。
また、夜間休日の拘束体制を維持した。
- ④ 無痛分娩数の維持
全経腔分娩の 15%と横ばい。母体管理体制を整え、安全性と質を高め潜在的ニーズを拾い上げ、当院の分娩数の増加につなげたい。
- ⑤ 緩和ケアチーム対応患者数の維持
多職種と協議しながら、患者さんが少しでも満足できるよう質の高い対応をしていく。

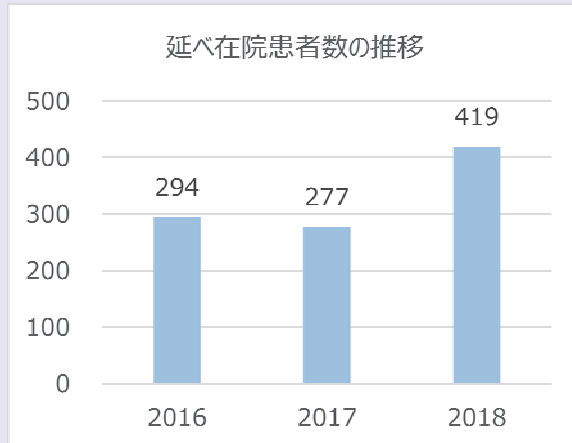
皮膚科

■所属医師

南部 昌之

■2018年度のトピックス、実績

総合病院としての特徴を生かすため、必要な患者については入院による療養を積極的に勧めた。新入院患者数は増加傾向となっている。



■事業報告

- ① 褥瘡や熱傷、下腿潰瘍などの創部治療についても積極的に関わっていく事に努めた。創処置に積極的に介入、形成外科と業務をシェアした。

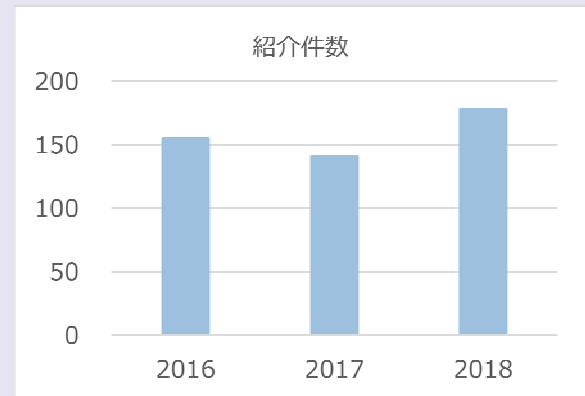
心臓血管外科

■所属医師

西澤 永晃、中嶋 和恵

■2018年度のトピックス、実績

オープンステントグラフトの導入。心臓血管外科手術全般に渡る外科手術を継続。また一般市民向け下肢静脈瘤セミナーを開催、能登地域医療機関向け講演会の開催や出張外来の継続にて、紹介患者数は増加している。



■事業報告

- ① 2018年度は一般市民向けの下肢静脈瘤セミナー(無料相談会/院内)を開始、計3回開催したことで、静脈瘤手術件数が増加した。またハートセンターとして循環器内科と合同で、能登各地域(珠洲・輪島・宇出津・志賀町/富来)及び七尾の医療機関と連携を深めるための講演会を開催し、紹介患者数が増加した。2019年度も継続的に市民公開セミナー及び連携医療機関での講演会を予定している。また、講演会の地域拡大(羽咋方面)や、産業医との協力による一般事業所への講演会を企画している。
- ② 手術件数については、高齢化率の上昇と人口減少地域であることを考慮しても、開心術の重症例が増加している中で現状を維持している(手術自体ができない状態の方が増えているのが現状)。能登地域で唯一循環器内科との協力体制で心臓血管手術ができる施設であることをアピールすること、循環器疾患全般の出張外来の継続・拡大により、循環器疾患の診療件数の底上げになる。

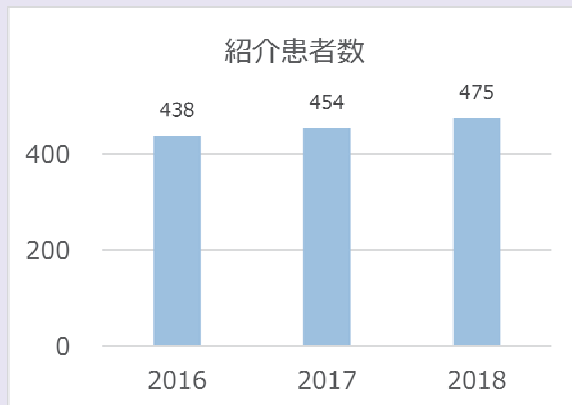
循環器内科

■所属医師

宝達 明彦、東 雅也、高嶋 勇志

■2018年度のトピックス、実績

リードスペースメーカーやカテーテルアブレーションの導入など先進的な医療の提供を続けている。また珠州市総合病院での出張外来の開始や能登各地での講演会開催を経て、紹介患者数は大幅に増加した。



■事業報告

- ① 昨年度は珠州市総合病院への出張外来を開始した。さらに心臓血管外科と協力し、ハートセンターとして、珠洲、輪島、宇出津、志賀町の各地区で病院/診療所と連携を深めるための講演会を行い、紹介患者数は増加した。本年度も継続的に講演会を企画しており、さらなる病診/病病連携を図っていく。
- ② 虚血性心疾患に対するPCIはもともと全国的に減少傾向にあり、さらに2018年4月より保険適応が厳格化したため、紹介患者数が大幅に増加したためPCI件数はやや増加した。これは人口減の能登地域としては驚異的といつてよい成果である。
- ③ 常に全国レベルの治療を提供するために、下肢動脈用DCB、SFAステントグラフト、リードスペースメーカー、カテーテルアブレーション用3Dマッピングシステムの導入など、新規のデバイス、治療手段の導入を積極的に行っている。結果的に上記は能登地域唯一の施行可能施設となり、他の病院との差別化に繋がっている。

放射線科

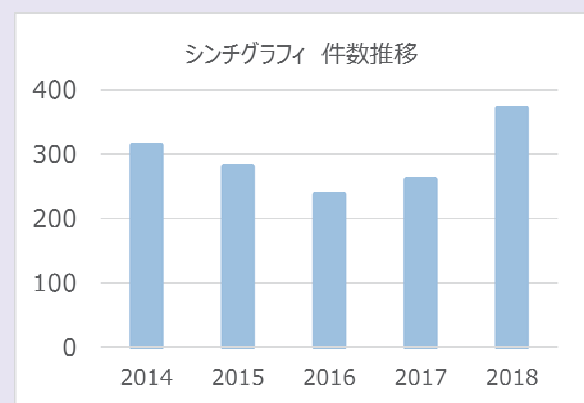
■所属医師

角 弘諭

■2018年度のトピックス、実績

2017年度に新しくガンマカメラを更新している。心臓カテーテル治療の前に、心筋シンチを促す診療報酬改定の影響や新しい認知症検査薬等により検査数が増加。

シンチグラフィ件数 371件、前年度比 42.7%増



■事業報告

- ① 腹部血管塞栓術
緊急での腹部血管塞栓術5例を含め、40例行っている。前年度比33%増加。
- ② 核医学検査
PET検査件数 829件。前年度比7.7%増加。

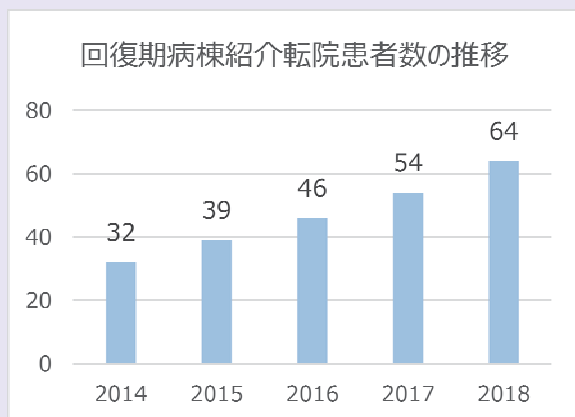
リハビリテーション科

■所属医師

川北 慎一郎、平井 文彦、伊達岡 要

■2018年度のトピックス、実績

グラフで示すように回復期リハ病棟への転院患者は著明に増加している。当院では、専従リハ医体制のもと365日平均7.7単位のリハを施行し、アウトカム指数42と基準の37を大きく超え、回復期病棟1としての質を維持している。



■事業報告

- ① リハ依頼数、リハ処方数は年間2,500例と横ばいであったが、リハ収益は微増した。
- ② 急性期リハも365日施行となり、急性期退院患者の在院日数延長なしでもADL低下させずに退院できるようになった。
認知症外来紹介数は年15例と維持されており、認知症ケア回診数は月6例、認知症患者治療開始数は月3例であり認知症ケア加算点数は微増している。
- ③ 自動車運転再開のための評価・診断書作成数50例、痙縮への上肢、下肢へのボツリヌス注射数70例で微増している。
嚥下外来、VF、VE検査数33例は微減している。
- ④ 腎リハ、産科リハなどに新しく取組み、ボツリヌス注射、ニューロリハビリ、回復期リハ病棟紹介などのパンフレットを作成し、それらについてのホームページも更新した。
- ⑤ リハ研修プログラムを作成し、新人教育システムを新たに構築した。リハ全体の学会発表数は34、論文数は10篇、資格取得数は18と増加している。
- ⑥ リハ全体の離職率は5%以内と減少した。

第2章 法人方針・事業報告（恵寿総合病院）

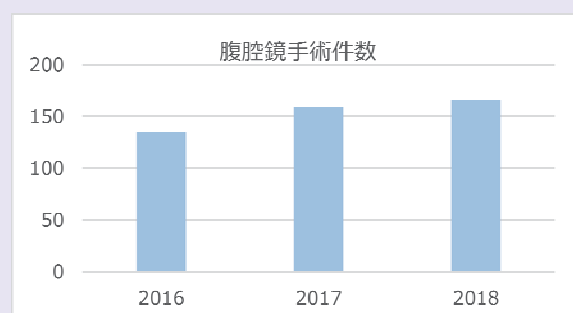
消化器外科

■所属医師

佐藤 就厚、高井 優輝、河野 達彦

■2018年度のトピックス、実績

今年度目標の中で、腹腔鏡下ヘルニア手術、外来・入院単価を除いて、売上、および前年度に未達成だった肝切除術を含め、腹腔鏡を中心とした目標手術件数に到達した。売上増の要因として、診療報酬改定分を加味しても、化学療法の積極的な施行と、入院治療に注力した成果と考えられた。



■事業報告

- ① 消化器外科として全麻手術を210件→214件で達成
- ② 腹腔鏡手術を160件→166件で到達
- ③ 肝切除術を5件/年→7件で到達
- ④ 腹腔鏡下ヘルニア（鼠径・大腿・閉鎖）手術を40件→32件で未到達
- ⑤ 外来・入院患者の売り上げおよび単価の前年比増加1人当たりの業務負担が増した可能性も否定できない。効率の良い業務を求める努力が重要でと思われた。

乳腺外科

■所属医師

鎌田 徹

■2018年度のトピックス、実績

2016年度から乳腺外科を専門科として独立し、評判向上と充実を図っている。乳がん手術例（4月～3月）は昨年度25例に対して、今年度は35例と大幅に増加した（下図）。2019年3月から外来の乳腺超音波装置が新しくなり、画像の質向上が図られ、針生検などの処置がより安全に行えるようになった。



■事業報告

① 乳がんの診療の充実

昨年度に比較し、乳がん手術件数は増加（図）し、外来化学療法・放射線治療件数ともに増加し、当院乳腺外科が周知されてきたと考える。

② 学会参加などにより知識を深め、市民に乳がんの啓発を行う。

2018年5月に日本乳癌学会にて症例報告を行い、6月に市民公開講座、11月に県民公開講座にて乳がんの検診の必要性などについて発表した。

③ その他

昨年導入したマンモグラフィ装置の付加機能であるトモシンセシスなどを取り入れた乳がんドックを9月にスタートした。今後、ドックの乳房超音波検査は女性放射線技師が実施する方向で検討に入った。

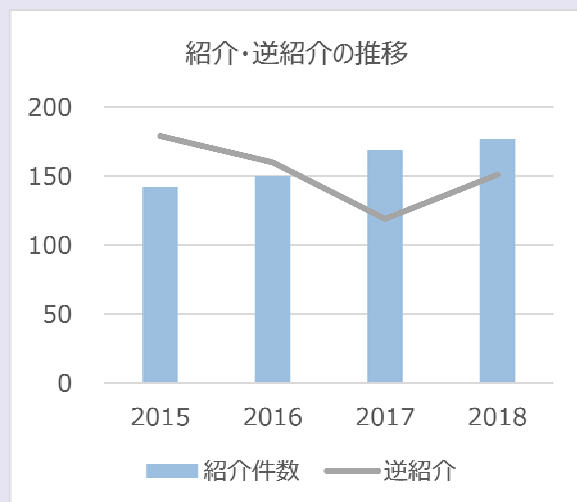
神経内科（脳神経センター）

■所属医師

木元 一仁

■2018年度のトピックス、実績

紹介・逆紹介、新入院患者数、外来・入院実績も前年度と比較すると増加している。



■事業報告

- ① 外来・入院実績も前年度と比較すると増加している。
- ② 外来、救急医療を継続し、入院患者は常時 15～25 名を推移している。
- ③ 多職種でのストロークユニット回診、カンファレンスを定期的に行い、スタッフのレベルアップを図っている。
- ④ 一人診療科であり、現状が限界がある。

救命救急科

■所属医師

米田 高広

■2018年度のトピックス、実績

石川県ドクターヘリ運航開始。

心電図データ伝送システムを能登地区の救急隊と結んだ。

七尾鹿島救急本部・救急隊員の生涯研修受け入れ。

24時間 365日体制を継続。



■事業報告

- ① 目標と達成度
財務、顧客、業務プロセス、学習それぞれの方面でほぼほぼ及第点をとることができたように思える。
- ② 教育研修など
七尾鹿島消防本部の救急救命士の方々を対象とした生涯研修を受け入れた。12名の救急救命士が3か月間にわたり、実際の医療現場の医療行為について見学、実習を行った。これに類似する取り組みとして、従来からの救急事例検討会の開催（救急実行委員会）、循環器内科医師による心電図勉強会も開催し、救急隊との連携を深めた。県下の救急隊が集う、石川県救命救急研究会学術大会にコメンテーターとして参加し、取り組みに対する意見を述べた。
- ③ 今後の課題
断らない救急を継続するため、各診療科の医師、看護師、コメディカルスタッフとの連携、タスクシェアができる体制を構築したい。

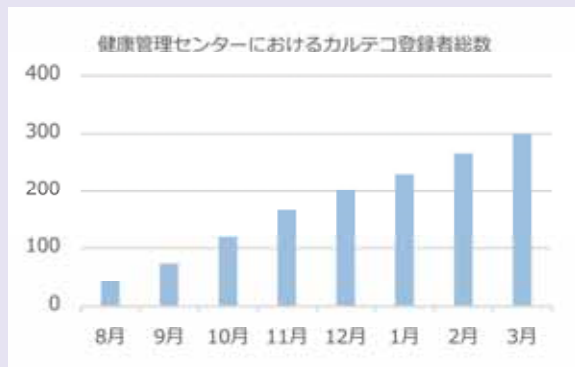
健康管理センター

■所属医師

上野 恭一、泉谷 麻子

■2018年度のトピックス、実績

8月より自分のスマートフォン・PCから人間ドックの検査結果・画像などが閲覧できるようになった。検査結果のグラフ化、結果用紙では見ることのできない検査画像を見ることができたりと、ご自身の健康管理ツールとしてうってつけのサービスとなった。



■事業報告

① 健診版カルテコ導入

8月よりサービスを開始し、当センターにおけるカルテコ登録者数は300名に達した。今後は、登録者数を増やしていくとともに、検査結果・画像の閲覧以外の新サービスを展開したい。

② 乳がんドック開始

4月に能登地区初導入の3D撮影検査（トモシンセシス検査）が可能なマンモグラフィ装置を導入し、9月より乳がんドックを開始した。新たに検査が可能となった「トモシンセシス検査」を24名が受け、それに伴い、乳腺超音波検査の件数も増加した。

③ 職員への特定保健指導実施

全国健康保険協会石川支部と契約し、職員への特定保健指導を実施した。今後は、該当者へ更に積極的に促し、生活習慣改善に取り組みたい。

④ 受診者数推移

昨年度同様、来院・出張健診を含め、10,000名以上の方が受診された。受診者数を維持しながら、人間ドック認定施設更新等、更に質も高めていきたい。

中央手術部

■部長

長谷川 公一

■師長

金森 敦志

■2018年度のトピックス、実績

- ①手術件数 1,660件（前年度1,567件）
- ②総在室時間 3,659時間（2,192時間）
- ③緊急手術割合 33%（前年度30%）
- ④術前訪問の実施 100%（前年度100%）



■事業報告

① 手術件数の増加

昨年度に比較し、手術件数は約6%増加した。なかでも麻酔科管理件数は20%増加し、手術記管理システムを有効に利用できた。

② 総在室時間の大幅な増加

手術室の利用時間が、66%増加した。手術件数の増加のみならず、手術内容の変化、腹腔鏡手術などの増加などに対応していることがわかる。

③ 緊急手術割合の維持

急性期医療の強化、手術件数の増加のため、緊急手術を滞りなく行う。また、夜間休日の拘束体制を維持する。

④ 全例術前訪問の維持

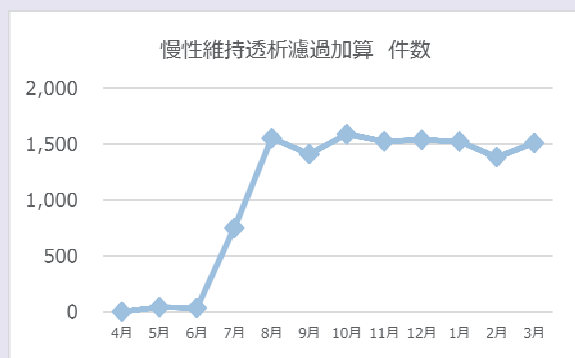
術前訪問をすべての予定手術症例で行う。他部署、他職種と情報を共有しながら、患者さんが少しでも満足できるよう質の高い対応をしていく。

血液浄化センター

■ 部長 ■ 師長
林 憲史 菅野 則之

■ 2018 年度のトピックス、実績

2018 年度の診療報酬改定によって、慢性維持透析が大きく減算された。慢性維持透析濾過加算取得対応機器への早期更新を行うだけでなく、透析通信システムなどの ICT 化を推し進め、患者には、従来よりも優れた透析療法を提供し、スタッフには、仕事量の軽減につながる改革を行った。



■ 事業報告

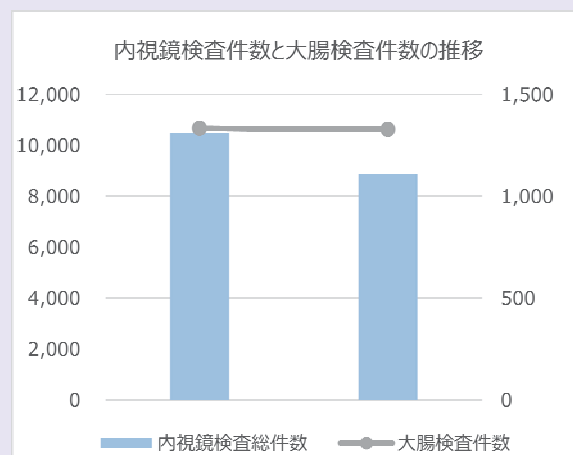
- ① 透析患者 130 人前後を維持。慢性維持透析濾過加算 50 点が早期から取得できたことで、7 月半ばの透析機器更新後より加算件数が増え、それに伴い高い単価を維持できた。
- ② 下肢の血流チェックとして、血管の石灰化の影響を受けず評価できる皮膚灌流圧測定:SPP(100 点)を導入し、毎月 15 件前後実施。
- ③ 透析通信システム(Future Net Web+)導入のため、FNW 新規導入コース受講し 12/10 稼働。これにより、体重計算などの条件設定が自動化、バイタルサインを電子カルテに転記する作業も不要となった。記録も透析レポートを参照する形に変えることでシンプル化できた。FNW は看護職だけでなく、医師(入力オーダー無限ループ)や、臨床工学士(機器点検 33 項目削減)、医事(コスト漏れがない)などの仕事量の軽減につながる効果が生まれた。
- ④ 次年度への課題として、ICT 化によって、見えてきた無駄な業務や書類を省き、更なる生産性の向上を図りたい。また、腹膜透析患者の外来体制を整え、受け入れを実現させる。

内視鏡部 (内視鏡課)

■ 部長 ■ 課長
瀧崎 宇一郎 松田 栄美子

■ 2018 年度のトピックス、実績

内視鏡総件数は減少したが、大腸検査は昨年同等数を維持している。



■ 事業報告

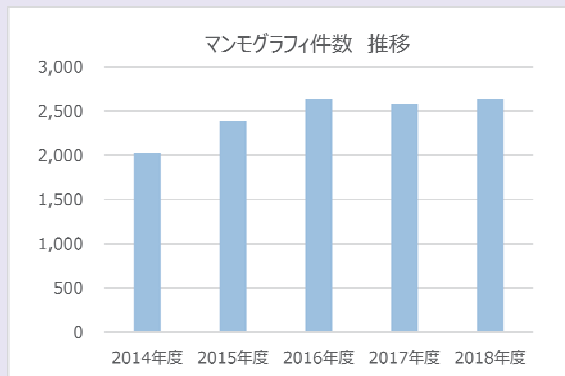
- ① 内視鏡総件数 8,880 件で昨年より 1,616 件減。スタッフ減少に伴い件数を削減し目標値を 8,000 件としたが 8,880 件で目標は達成できた。
- ② 大腸検査自宅飲みの推奨
2017 年 168 件
2018 年 357 件
来年度は更にスタッフが減少することから大腸検査の自宅飲み推奨が必要不可欠である。
- ③ 治療日を週一(火曜日)に設けたことで治療に必要なデバイス等の必要数が把握しやすくなった。
- ④ タスクシェアでは ME を 1 名教育中。
洗浄や洗浄機のメンテナンスなど主に機器管理を担当。ゆくゆくは拘束に入れるように教育していく。

放射線部（放射線課）

■ 部長 角 弘諭
 ■ 係長代理 赤坂 正明

■ 2018 年度のトピックス、実績

マンモグラフィー装置の更新を行っている。高画質と低線量での検査に加え、最新の撮影でもあるトモシンセシス（断層撮影）が可能になった。質の高い医療に貢献すべく、9月より乳がんドックを開設している。



■ 事業報告

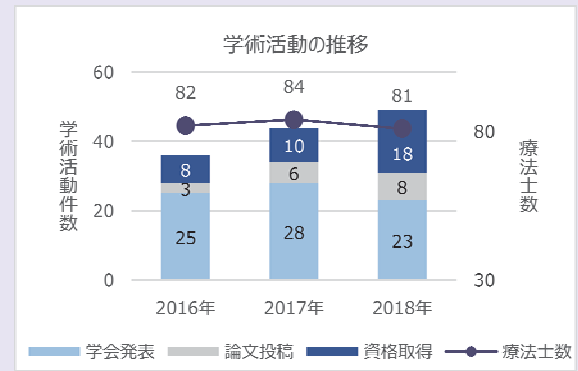
- ① CT、MRI
 CT 15,904 件（目標 15,000 件以上）、前年度比 0.3%減。MRI 4,963 件（目標 4,900 件以上）、前年度比 3.1 %減。
 ・CT、MRI とも前年度よりやや減少とはなったが、高い件数で推移。今後も CT 検査は予約不要の体制。MRI 検査については、緊急対応や朝 8:00 からの予約枠も極力埋めるなどして、患者サービスの向上につなげる。
- ② 画像診断報告書の未読に対して、重要な所見が放置されていないか、放射線課でチェックする体制を整備。
- ③ 田鶴浜診療所へ技師を派遣し常勤体制
 X線撮影の他、骨密度検査、ABI 検査を施行。
- ④ 検診マンモグラフィ
 能登地区初のトモシンセシス検査を利用した乳がんドックを開設。年度途中からの開始であり、今後さらなる周知により患者サービスに向上つなげていく。

リハビリテーション教育研修センター

■ センター長 川北 慎一郎
 ■ センター次長 井舟 正秀

■ 2018 年度のトピックス、実績

リハビリテーション部では臨床実践のみに留まることなく、学術活動として学会発表、論文投稿、周辺資格取得を推進している。2018 年度では 2017 年度に比し療士数は 3 名減少し、学会発表の件数は減少したものの、論文投稿数は 33%、資格取得数は 80%の増加を示した。



■ 事業報告

- ① 財務の視点（ ）内は目標比
 ・リハ部の診療報酬/単位数 236 点（100%）
 ・リハ部の査定件数の削減 3 件/月（100%）
 ・リハ部の指導料・加算・管理料増加
 退院時リハ指導料取得件数/月 148 件（102%）
 初期・早期加算取得件数/月 3,971 件（99%）
 目標設定等管理料取得件数/月 72 件（100%）
- ② 顧客の視点
 ・職員満足度では 職員研修に対して 56%（70%）
- ③ 業務プロセスの視点
 ・リハ教育研修センター業務指針作成
 ・新人研修プログラム数増加 15 件
 ・スタッフ共通評価シート作成件数 3 件
 ・職員データベース作成 PT 分のみ作成
- ④ 学習と成長の視点
 ・法人内交流研修参加者数 22 名
 ・学術活動（学会発表等）昨年比 111%
 ・新規採用者数 16 名
 ・離職率 4.9%

リハビリテーション部（理学療法課）

■ 部長 川北 慎一郎
 ■ 課長 田中 秀明

■ 2018 年度のトピックス、実績

新規事業の腎臓リハビリテーション（腎リハ）と産科リハビリテーション（産科リハ）に取り組んだ。腎リハは透析中に仰臥位エルゴメータ（簡易自転車）で有酸素運動を行った。今後、対象者を増やしていく。産科リハは産前で疾病のある患者を対象とした。今後は、治療根拠がある周産期の対象を検討していきたい。診療報酬の返戻・査定件数が昨年度に比べ 1 件/月の減少が図れた。

<仰臥位用エルゴメータ使用件数>

疾患内訳	件数
腎疾患	7
整形疾患	3
その他	1
合計	11

■ 事業報告

- ① 財務

病床稼働率の低下した時期があったが、指導料・加算・管理料の積極的取得にて単位数の単価向上は図れた。
- ② 顧客・業務プロセス
 - a) リハビリテーション部ホームページを作成した。
 - b) ポツリヌス療法、回復期リハビリ病棟のパンフレットを作成した。
- ③ 学習と成長
 - a) 学会発表数は 11 件、周辺資格取得は 18 件と目標を上回った。論文は 2 件受理、1 件投稿中。
 - b) 研修会参加 51 件、院内勉強会 70 件と自己研鑽が図れた。
 - c) リハビリテーション共通評価シート作成・修正を行い、董仙会施設が共用で使用できるようにした。
 - d) 和光苑への 1 日研修 6 名実施した。総合的には目標通りの結果を達成した。

リハビリテーション部（作業療法課）

■ 部長 川北 慎一郎
 ■ 課長 川上 直子

■ 2018 年度のトピックス、実績

スタッフ数は昨年度と同数。
 作業療法課の新規患者数が年間で 130 名増加しており、初期・早期リハビリの件数が増加した。



■ 事業報告

- ① 診療報酬：前年度比 106%
 診療報酬/単位：前年度比 102%
 退院時リハビリ指導、目標設定等支援管理料は前年度比 120%、140%で、在宅生活や介護保険サービス移行への円滑な移行を積極的に行った
- ② リハビリテーション部の紹介パンフレット、ホームページの作成：自動車運転再開支援、ニューロリハビリ（CI療法）
- ③ 新たな認知症評価（CDR,NPI, FAST）の導入を検討し、より対象者の症状に合わせた評価を実施
- ④ 学会発表 5 題、論文投稿 1 題
 リハビリテーション共通評価シート作成・修正、董仙会施設が共用で使用できるようにした
 介護保険施設への 1 日研修 4 名実施

リハビリテーション部（言語療法課）

■部長

川北 慎一郎

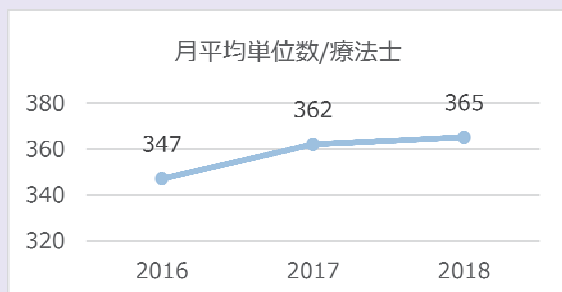
■課長

諏訪 美幸

■2018年度のトピックス、実績

日本摂食嚥下学会リハビリテーション認定士1名誕生。
学会入会数は5名で、学会WEB学習e-ラーニング終了者は4名だった。（認定士の受験資格には、入会后2年以上の経過年数が必要で、WEB学習e-ラーニング終了が条件となっている）

実績：言語聴覚士1名当たりの月平均単位数は、前年度362→今年度は365単位（0.8%）と増加。



■事業報告

- ① STスタッフ1名増員→6名
- ② 疾患別新患数：422件→473件(+12%)
脳血管 201件→230件、摂食機能療法 175件→227件、がんリハ・廃用 46件→26件
- ③ 摂食機能療法件数：8,809件→9,026件（+2.4%）
- ④ 嚥下造影・内視鏡検査：38件→33件（-13%）
- ⑤ 心理検査件数/月平均：38件→45件（+18%）
目標値→2018年度実績（達成率：%）
- ⑥ 月平均診療報酬/療法士：昨年度と同点数
- ⑦ 月単位数/療法士：365単位→365単位（100%）
- ⑧ 論文：音声言語医学、全日本病院協会雑誌 2編
発表：全国学会：2題、県：2題、研究会：3題
- ⑨ 資格取得：日本摂食嚥下学会リハビリテーション認定士1名誕生
- ⑩ 今後の課題：経験年数が浅いSTが2/3以上を占める為、人材育成を重視し、嚥下関係の資格取得にむけて質の向上を図り、早期退院に向けて継続的に取り組み、診療報酬の増加を図っていくことである。

薬剤部（薬剤課）

■部長

川村 研二

■課長

藤田 昌雄

■2018年度のトピックス、実績

- ① 服薬指導患者数 2018年度 2,938名で、前年度より477名増加した。持参薬鑑別件数は2018年度5,913件で前年度より242件増加した。
- ② 実務実習指導薬剤師1名および糖尿病薬物療法准認定薬剤師1名が認定された。
- ③ 機能評価係数後発医薬品使用体制加算1算定。



■事業報告

- ① コスト削減：ジェネリック比率
2017年3月 89.6% ⇒ 2018年3月 91.1%
- ② 服薬指導件数+退院指導件数
2017年度 4,687件→2018年度 5,812件
- ③ 無菌製剤処理科
2017年度 2,150件→2018年度 3,115件
- ④ 一般名処方加算
2017年度 38,954件→2018年度 44,497件
ジェネリック比率を90%以上維持し、薬品のコスト削減に貢献した。抗癌剤使用患者が増え、又TPN混注を増やし、混注件数が増えた。
病棟薬剤管理業務を継続し、すべての入院患者の持参薬の鑑別を行った。
12月から3月にかけて薬学生の実習を受け入れた。

臨床栄養部（臨床栄養課）

■ 部長 木元 一仁
 ■ 課長 前田 美穂

■ 2018 年度のトピックス、実績

栄養指導と栄養サポート加算の件数増加を図った。今年度、加算が可能となった回復期リハビリ病棟での栄養指導は年間で 163 件実施した。



■ 事業報告

- ① 栄養指導 + 栄養サポート加算の増加
 昨年度に引き続き、栄養指導と栄養サポート加算の件数の増加を図った。
- ② 回復期リハビリ病棟での栄養管理体制の強化
 2018 年度診療報酬改定において、回復期リハビリテーション病棟に専任の管理栄養士 2 名を配置し、リハビリテーション部と連携し栄養管理を行う体制を整え、もれなく実施した。
- ③ 外来栄養指導実施件数の維持
 目標の月 100 件を実施した。
- ④ 管理栄養士の技術向上
 学会発表や研究、認定資格取得を推奨し各管理栄養士がいずれかに取り組んだ。また毎月定例で管理栄養士勉強会の開催を継続している。

臨床検査部（臨床検査課）

■ 部長 西澤 永晃
 ■ 課長 谷内 正人

■ 2018 年度のトピックス、実績

今年度は TQM 活動で超音波検査（心臓エコー）のスムーズな検査予約と待ち時間の軽減をテーマに活動した。結果として心臓エコー件数の増加とその波及効果として他の生体検査件数の増加も認めた。



■ 事業報告

- ① 検体検査件数、昨年実績比較
 検体検査総数：279,582 件 前年比 5.2%増
 a) 病理検査：10,346 件 前年比 3.6%増
 b) 細菌検査：14,746 件 前年比 0.9%増
- ② 生体検査件数ならび点数 昨年実績比
 生体検査件数：36,371 件 前年比 0.07%微増
 点数実績（検診・病棟検査を除く）7,009,310 点
 昨年実績より 390,315 点増加した。
- ③ 患者サービスとして新規検査、院内検査実施に切り替えた。
 貧血の精査：フェリチン測定の院内実施開始
 糖尿病負荷：インスリン測定の院内実施開始
 精子特性分析：SQA-V による精液検（不妊治療）
 呼気 NO（一酸化窒素）：呼吸機能検査開始
- ④ 検体検査 50 分以内の報告
 調査日：外来件数の増大する曜日（水曜日）
 175/261 件 67%の報告に留まった。
- ⑤ 恵寿総合病院医学雑誌に泌尿器科川村医師指導のもと産技師が投稿した。

臨床工学部（臨床工学課）

■ 部長

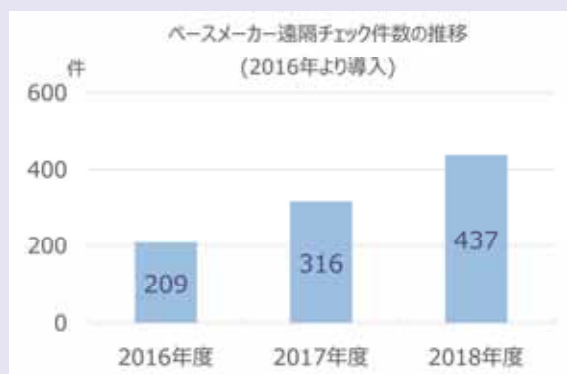
長谷川 公一

■ 課長

栃原 康則

■ 2018 年度のトピックス、実績

- ①透析液清浄化を強化して管理体制の整備を行い、全自動人工透析装置・オンライン HDF を導入。
- ②遠隔診療（情報通信機器を用いた診療）への対応として、心臓ペースメーカー等を使用している患者へ遠隔モニタリング導入の推進。



■ 事業報告

- ① 医療安全管理委員会活動(医療機器安全管理責任者)として、適切な機器の導入、安全教育、日常の保守管理体制の整備の実施。
- ② 生命維持管理装置(呼吸・循環・代謝)の操作を中心とした業務において、医師からの要求・依頼に高度な専門性を持って対応できるシステム構築の推進。
- ③ 能登地区唯一の心臓外科手術施設としての、体外循環(人工心肺)業務の体制確保と記録システムの活用。
- ④ 透析機器安全管理委員会の運営と透析液清浄化対策の推進。
- ⑤ 透析支援通信システムの導入による業務効率化と、透析治療の安全性・利便性向上の促進。
- ⑥ 各種内視鏡手術関連装置の管理と手術支援の継続。
- ⑦ 心臓カテーテル検査・手術時の心電図・圧測定や電気刺激、急変時の人工呼吸・除細動・補助循環の体制確保と、OCT(光干渉断層法)導入による冠動脈評価の技術支援の推進。
- ⑧ 医療ガス安全管理委員会の運営と法令点検の遵守。

看護部

■ 看護部長

本橋 敏美

■ 2018 年度のトピックス、実績

- ①特定行為看護師 6 名誕生、計 11 名となる。特定行為実施件数：76 件/年、実施患者数 24 名。
- ②産休・育休者対象とした「育 Café」を開催。評判上々。
- ③看護学生のインターシップを開催。体験者 6 名が就職。
- ④新入院患者数増加、病床回転率の上昇。



■ 事業報告

- ① 退院支援の強化
「退院支援看護師育成プログラム」を企画・運営
14 看護単位のすべての部署より、看護師 1 名ずつ参加。座学・グループワーク・施設研修・訪問看護ステーション研修など、退院支援看護師として必要な能力・スキルを学んだ。2 月に退院支援実践の成果発表会を実施し、情報を共有。
- ② 人材確保
 - a) 看護学生のインターンシップを初めて開催。9 名の学生が臨床の現場を体験し、先輩看護師と意見を交わした。看護部長との対談で病院を PR。参加者の 67%が就職する。
 - b) 産後休暇・育児休暇中の職員の交流の場を設定。「育 Café」として、子育てに役立つ情報を提供。その後に、育ママ仲間との交流会。ママやお子さん達の最高の笑顔を見ることができた。
- ③ 看護管理者育成
「院内看護管理者研修」を看護部長が講師となり、毎月開催。看護の概念化、看護マネジメントリフレクション、目標管理等についての学びを深めた。

第 2 章 法人方針・事業報告（恵寿総合病院）

医療安全管理部 (医療安全管理室・感染制御室)

■部門代表者

山野辺 裕二、山崎 雅英

■2018年度のトピックス、実績

①新設された医療安全対策地域連携加算取得への取り組みを行うことで、インシデント・アクシデントの報告体制の改善を行うとともに加算取得も可能となった。

②新設された抗菌薬適正使用支援加算取得への取り組みを行うことで院内 AST 活動が定着し、加算取得も可能となった。



■事業報告

- ① 医療安全対策地域連携加算および抗菌薬適正使用支援加算の算定要件を満たすべく、計画・実施し、収益のみならず、医療安全では分析シート採用で再発防止対策の強化、感染管理では研修医教育など、付加価値が得られた。
- ② インシデント・アクシデントの報告体制を改善し、リスクレベル0と1のレポート数増加に取り組み始めた。また、リスクレベルにこだわらず、警鐘事例をピックアップし対策に繋げた。
- ③ 特定抗菌薬の届出強化を行い、7月から3月までは毎月100%を維持、年間届出率も過去最高の98.9%であった。
- ④ 針刺し切創・皮膚粘膜曝露事例が、昨年の25件から13件に減少した。
- ⑤ 日本感染管理ネットワーク東海北陸支部総会および日本環境感染学会でAST活動の発表を行い、今後の活動展開に繋げた。
- ⑥ 今後は、医療安全管理者および感染管理者の後継者育成と、リスクマネージャーおよび感染リンクスタッフの底上げを行い、医療安全と感染管理の質向上に努めていきたい。

第2章 法人方針・事業報告 (恵寿総合病院)

事務部

■部門代表者

森下 毅

■2018年度のトピックス、実績

第三者認証の取得を目標とし、ISOと外国人患者受入医療機関認証の更新をした。七尾市の外国人居住者や観光客の増加に伴い、当院を利用する外国人患者数も増加傾向にある。日本人患者同様に安心して診療を受けられるように体制を整えている。



■事業報告

- ① 新規・初診患者増加の要素の一つである紹介患者増加を目標の1つに挙げた。診療部、看護部の協力と地域連携活動により、4,500人/年(目標4,600人)から4,614人/年と目標を達成した。
- ② 患者満足度、職員満足度調査を行っている。病院全体の総合評価では目標点に届かず、特に外来患者においては待ち時間の満足度が低かった。職員満足度も目標の点数を下回った。
- ③ 今後の課題
データに基づく戦略決定や業務改善のため、効果的なデータ分析、考察、提案を行う力を付けたい。また、各部門でそれぞれ管理をしているデータの集約、共有を行うことで、分析業務の効率化を行いたい。そして収益性の向上につなげたい。働き方改革により、生産性の向上が求められる。事務部内にとどまらず、医師をはじめとした医療従事者とのタスクシェアが求められるが、ニーズに応えるべく自部門の業務プロセスを見直しを行う。これは職員満足度向上にも寄与すると考えている。

医療福祉相談課

■部門代表者

中川 一美

■2018年度のトピックス、実績

入退院支援に関して外来部門、入院療養部門と協働し体制を整備した。患者が安心して入院療養に臨むことができるよう仕組みを強化した。

課内ではグループ制を導入し、患者支援の標準化と効率化を図った。



■事業報告

- ① 入院前の外来部門から入院療養を経て、また地域へ安心して戻るための入退院支援体制を多部門と連携し整備した。
入退院支援加算 1 1,054 件（目標比 109%）
入院時支援加算 118 件の算定にもつなげた。
- ② 地域向け MSW 満足度アンケートを実施。
接遇満足度 99%（目標比 99%）、退院調整連絡時期満足度 82%（目標比 96.5%）。改善事項を多部門と共有し、個別患者支援に活かした。
- ③ 患者支援の標準化かつ、業務の効率化を目的に課内でグループ制を導入。グループでの補完、ワードパレットの見直し等を行った。また MSW カルテ内容が充実するよう評価チェックを年間 5 回実施した。（平均 84.8 点/100 点）引き続き、標準化と効率化双方を意識して業務改善に取り組んで行く。
- ④ 学習と成長 介護支援専門員更新 2 名
- ⑤ 今後は入院前から退院までの業務フローを見直し、更なる顧客満足と退院支援体制の強化を図る。

地域連携課

■部門代表者

宮田 琴江

■2018年度のトピックス、実績

新サービスとして導入されたカルテコに登録者数「100」を目標とし、課内職員が全員カルテコに登録し自身で体験した事項を根拠に、紹介患者に登録を呼びかけた。並行し連携医療機関へ有効性をアピールし紹介件数増を目指した。



■事業報告

- ① 紹介件数 4,600 件
前年度減少した共同利用の件数増を目標に渉外活動を展開した結果、390 件と前年度を上回る結果であった。
- ② カルテコ新規会員登録者数目標「100」
総数 700 名の紹介患者に登録を呼びかけた結果、カルテコ新規会員登録「104」名を獲得。目標を達成した。
- ③ 返書作成業務の代行
全医師を対象に返書作成に対する意向確認のためのアンケートを実施した。結果、一次返書代行業を希望する医師が 13 名おり、依頼医師 13 名に対し、6 月から合計 126 件代行した。
- ④ 院内外での発表
「心不全患者の在宅ケアを考える会」パネリスト 1 名

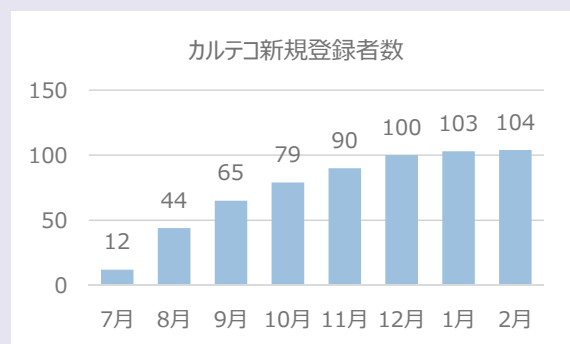
サービス課

■部門代表者

寺尾 美樹

■2018年度のトピックス、実績

- ① 健診で要精密検査となった方の検査予約に取り組み、胃カメラ検査対象者の予約が可能となった。同時に中能登町の1次健診の胃カメラ予約も開始となった。
- ② カルテコ新規登録者獲得の為、初診受付・入院受付でパンフレットを配布し勧誘した。外来職員にすすめられた、またはサインージを見ての登録者数 104 名



■事業報告

- ① 今期は対応力を上げて顧客満足度アップを目標とした
 - a) 外国人患者対応はコーディネータにより、通訳や翻訳機で安心して受診できる環境を提供した。
 - b) カルテコ新規登録者数 104 人(目標 100 人)
 - c) タスクシェア数 4 件
 - d) 2F フロア係、内視鏡受付、地域連携の事務作業
 - e) 補助、コールセンターでの書類問い合わせ対応
 - f) 介護入力補助拡大は実現できなかった。
 - g) 健診後の二次検査の予約制に取り組み、要精密検査の胃カメラ検査の予約が可能となった。
- ② 教育研修
 - a) Safety Plus 受講で医療知識の向上をめざし全員が全講座を受講済。
 - b) 講習会、勉強会への参加で知識を広めるよう目標設定したが、あまり効果が得られなかった。
- ③ 今後の課題
一人ひとりの知識や対応力に差があるため、個人差を縮め全員のレベルアップにつながる取り組みを実施。

管理課

■部門代表者

松木 尊紀法

■2018年度のトピックス、実績

- ① 産休スタッフ 1 名あり、人数減の中、課内の仕事、タスクシェアした仕事を割り振り、対応した。
- ② 臨床研修センターでは臨床研修医採用マッチングでフルマッチ (5 名) であった。見学者、実習生も多く受け入れた。
- ③ 看護師特定行為研修センターでは 2 期生 7 名が修了、3 期生 6 名を迎え入れている。新たに 3 区分追加した。
- ④ 医師 (研修医含む) の出勤退勤管理をシステムで運用開始。非常勤医師は医療秘書を通じて紙で運用。

■事業報告

- ① 臨床研修センター：医学生実習生受入数 28 名、医学生見学者数 34 名、研修医見学者数 1 名、医学生向けセミナー件数 3 件、臨床研修医選考試験受験者数 11 名、専攻医試験受験者数 1 名。
リクルート活動 (ブース訪問者数)：7/15 レジナビ東京 31 名、7/1 レジナビ大阪 21 名、2019/1/26 県合同説明会 6 名、2/17 レジナビ金沢 34 名 3/10 レジナビスプリング東京 43 名
- ② 看護師特定行為研修センター：2 期生 7 名修了、3 期生 6 名受講中。3 区分追加申請、承認 (血糖コントロールに係る薬剤投与関連、動脈血液ガス分析関連、創傷管理関連)
- ③ けいじゅ図書室：文献検索依頼数 101 件
- ④ 救命救急実行委員会で 3 コースの研修会を開催。
BLS プロバイダーコース 72 名参加
ACLS プロバイダーコース 19 名参加
JMECC 6 名参加
- ⑤ アドボカシー事務局：苦情 115 件、提案 34 件、お褒め 73 件、その他 10 件。コンフリクト・マネジメント研修会 基礎編 (16 時間) を受講、修了 (松木)

医事課

■ 部門代表者

三浦 基嗣

■ 2018 年度のトピックス、実績

加算の算定強化に努めた。特に「救急医療管理加算」に取り組み、算定用紙の工夫や医師への働きかけの結果、算定件数がアップした。

2018 年は 9,527 件で前年比 1,173 件増だった。



■ 事業報告

- ① 算定要件を満たしている「加算」や「指導料」について、漏れなく算定するために、医師や医師事務作業補助者と協力して件数アップを目指し、TQM 活動に取り組んだ。
- ② 「指導料」については、特に「難病外来指導管理料」に取り組んだ。
医事の受付・医師事務作業補助者・担当医師が使用する画面において、どの患者が難病指導料の該当患者を分かる工夫をして算定件数アップに繋げた。

医療秘書課

■ 部門代表者

三浦 有紀

■ 2018 年度のトピックス、実績

医師の業務負担軽減を目指し、難病外来指導管理料の代行入力やリマインドを強化。併せて 医事課との連携も図り、算定件数を 2017 年度 990 件から 2018 年度 1,548 件に伸ばした。



■ 事業報告

- ① 書類代行件数は 8,895 件で前年比 575 件増だった。
(内訳)
*各種証明書 6,071 件
*退院サマリ 1,262 件
*診療情報提供書 1,562 件
- ② 医師カルテ代行入力は 33,208 件で、前年比 595 件増だった。
- ③ 医師オーダー代行入力は 59,974 件で、前年比 901 件増だった。
- ④ 診療情報管理士によるがん登録は 1,086 件で前年比 58 件増だった。

恵寿金沢病院

■ 病院長

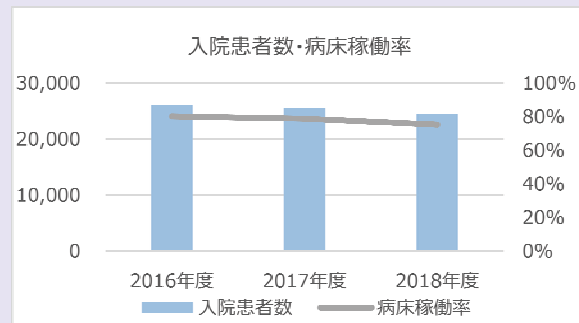
上田 幹夫

■ 2018年度のトピックス、実績

・2019年4月実施の労基法改正に伴う働き方改革を前倒し、「労働時間の客観的把握」「有給休暇の積極的取得（5日間）」を実施した。また、医師については「勤務管理システム」により始終業時刻の自己申告を実施し、労働時間を把握した。併せて新法に沿った36協定とした。

・人間ドック受検者拡大に対応するため、サービス内容の充実を目的にアンケート調査を実施し、食事内容の見直した

・訪問看護ステーション開設に向けて準備を進めた。



■ 事業報告

- ① 入院患者数：2.5万人（達成率：88.1%）
- ② 外来患者数：3.5万人（達成率：88.5%）
- ③ 人間ドック受検者数：1,614件
（対前年比：96.8%）
- ④ 全身麻酔手術件数：247件
（対前年比：115.4%）
- ⑤ 化学療法実施件数：4,199件
（対前年比：111.7%）
- ⑥ 無菌室利用件数：4,304件
（対前年比：88.3%）
- ⑦ 紹介件数：814件（対前年比：99.0%）
- ⑧ 救急車受入件数：102件（対前年比：86.4%）
- ⑨ 巡回インフルエンザ予防接種件数：1,582件
（対前年比：105.1%）

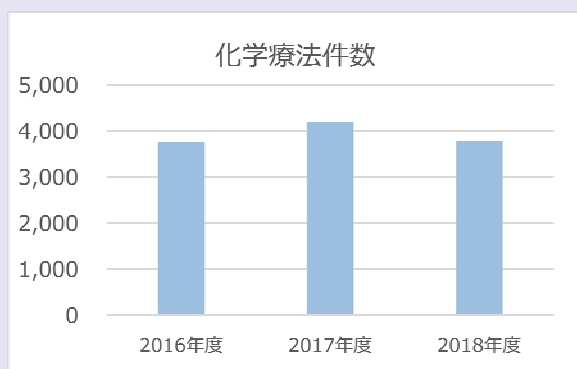
内科(恵寿金沢病院)

■所属医師

村田 了一、佐賀 務、山下 剛史、宗本 早織、井美 達也

■2018年度のトピックス、実績

新薬の投入が目覚ましい多発性骨髄腫に関して、金沢大学をはじめとした様々な大学や医療機関との間で複数の多施設共同研究に参加している。常に最新の治療レジメンを提供するとともに、日本独自の治療エビデンス蓄積に貢献している。豊富な治療経験と患者数によって、当院は同疾患の研究において国内で重要な施設の一つになりつつある。



■事業報告

- ① 入院患者数：19,000人（対前年比：96.5%）
- ② 外来患者数：11,200人（対前年比：99.3%）
- ③ 入院単価：対前年比：100.0%
- ④ 外来単価：対前年比：95.1%
- ⑤ 化学療法実施件数：3,782件
（対前年比：90.1%）
- ⑥ 無菌室利用件数：4,350件
（対前年比：101.1%）

整形外科(恵寿金沢病院)

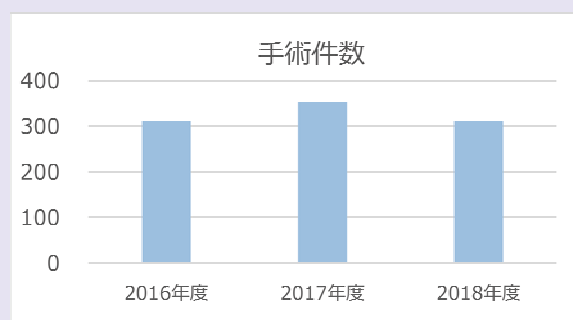
■所属医師

横山 光輝、米澤 克隆

■2018年度のトピックス、実績

病診連携をより密にすることで、金沢市内に限らず多くの医療機関より手術適応の方を紹介していただき、多くの手術件数を行うことができた。

紹介患者は可能な限り早期に手術・処置を行い、その後、紹介元に速やかに患者さんを逆紹介させていただくスピードのある医療を当科の特徴として、今後も病診連携を強めていきたい。



■事業報告

- ① 入院患者数：5,200人（対前年比：91.5%）
- ② 外来患者数：15,500人（対前年比：96.4%）
- ③ 入院単価：対前年比：95.4%
- ④ 外来単価：対前年比：98.6%
- ⑤ 全身麻酔手術件数：210件
（対前年比：85.0%）

眼科（恵寿金沢病院）

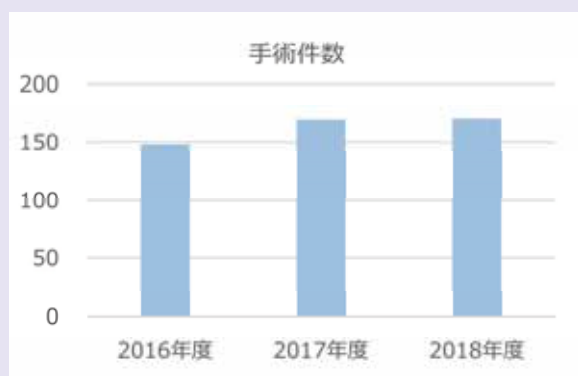
■所属医師

緑納 勉

■2018年度のトピックス、実績

新たに保険収載された涙道内視鏡検査（640点）に対応した。また、手術件数も前年を上回った。

医業収入は患者数の伸びであり、前年比6%増加した。



■事業報告

- ① 入院患者数：280人（対前年比：102.6%）
- ② 外来患者数：2,730人（対前年比：110.2%）
- ③ 入院単価：対前年比：103.7%
- ④ 外来単価：対前年比：94.8%
- ⑤ 局所麻酔手術件数：170件
（対前年比：100.6%）

看護部（恵寿金沢病院）

■看護部長

前大道 綾子

■2018年度のトピックス、実績

外来看護師と検査の協働で検査技師の採血実施が開始となり継続している。訪問事業部を独立。件数としては少しずつ増加。外来や病棟からの訪問看護同行を推奨し、経験した看護師は訪問看護師不在時にも訪問看護へ出向いた。認知症認定看護師が誕生し、病棟スタッフへの指導を開始した。



■事業報告

- ① 師長間の連絡を密にし、病棟状況を把握し指導、また他部署へ発信することで病床稼働率 平均 85%
→病床稼働率平均 75.2% 達成度 89%
- ② 無菌室の利用維持 70%
→無菌室利用率 59.6% 達成度 85%
- ③ 訪問看護利用者の増加 目標 86件
→利用件数 240件 達成度 279%
- ④ PNSの継続 実施
- ⑤ 看護師の定着 離職率15%にとどめる
→2017年度 新入職者 15名
退職者 10名
離職率 10.4%

事務部（恵寿金沢病院）

- 事務長 ■ 事務次長
- 森田 均 前田 亜佐子

■ 2018 年度のトピックス、実績

① 入退院支援

患者さんの入退院充実及び個々人の要望に応えるため、社会福祉士（1名）、入退院支援看護師（1名）を配置した。地域連携室の積極的な働きかけにより、地域の開業医との連携を密にし、レスパイト入院を積極的に受け入れた。

② 巡回インフルエンザ予防接種

金沢市を中心に事業展開している通信事業者の要望に応え、企業のコールセンターを巡回し、インフルエンザ予防接種を実施した。



■ 事業報告

① 離職率

職員の離職率低下に向けて、労基法改正を前倒した有給休暇取得の推進等を実施し、対前年度▲13.5%の改善を図り、職員の定着化を進めた。

② 地域連携の集い

市内ホテルを会場に「地域連携の集い」を開催し、近隣医療機関の院長先生、地域包括支援センターの担当者・ケアマネージャー等、多くの方々にご参加いただいた。当院とのレスパイト入院、レントゲンの共同利用、血液内科患者の紹介、整形外科患者の紹介、涙道疾患患者の紹介、訪問リハビリ、訪問看護の連携について意見交換を行った。

田鶴浜診療所

■部門代表者

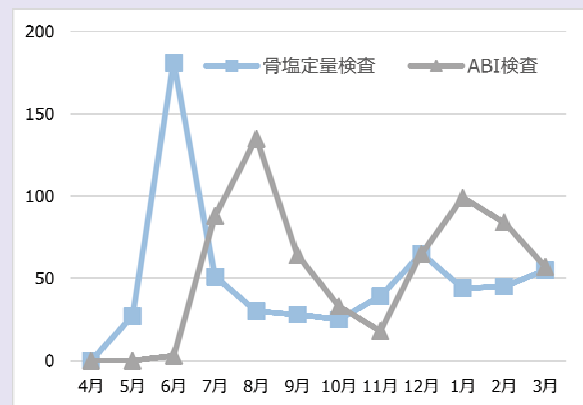
廣正 修一

■2018年度のトピックス、実績

患者数：7,154人（前年7,189人、前年比99.5%）

骨塩定量検査：590件

ABI（血管伸展性）検査：646件



■事業報告

- ① 今年度より所長の交代があり、質の高いプライマリーケアを目指して、生活習慣病などの慢性疾患に対し、レントゲン検査・血液検査・心電図検査などを積極的に行った。
- ② 新たに、骨塩定量検査・ABI検査を実施できる体制を整えて、該当する患者へ積極的に行った。
- ③ 早期発見に努め、専門的な治療が必要な場合には恵寿総合病院へ紹介し、早期治療に繋げることができた。

鳥屋診療所いきいき

■部門代表者

斎藤 靖人、中谷 茂和

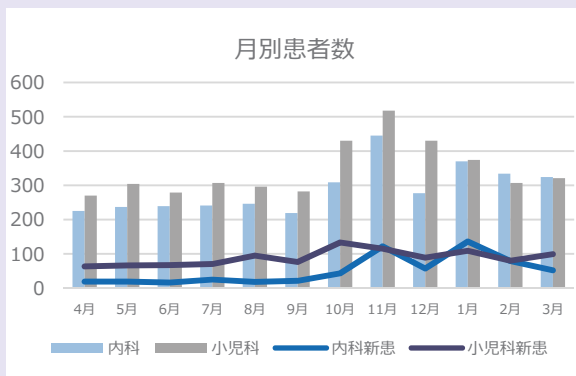
■2018年度のトピックス、実績

患者数 内科：3,428人、小児科：4,118人
計：7,546人（前年7,531人）

紹介 57人（恵寿総合病院 44人、その他 13人）

いきいき 総利用者数：3,272人

稼働率：70.4%（目標：80%）



■事業報告

① 鳥屋診療所

- a) 総患者数は、7,546人で、前年（7,531人）とほぼ同様の数値であった。地域唯一の小児科であるため新患、再診ともに患者数は、維持されている。
- b) 今後の課題として、定期的な検査等を行い、疾病管理を確実にやっていく。

② いきいき(デイケア)

- a) 延利用者数は、3,272人で、前年度比 6.5%減、稼働率も前年より 5.5%低下し、目標の 80.0%には届かなかった。
- b) より自立に向けたリハビリを行っていることで、利用者からは好評価を得ているので、アピールポイントとして利用者増につなげていきたい。
- c) 高齢者サロンでの講師を4回行っており、董仙会のアピールも行っている。

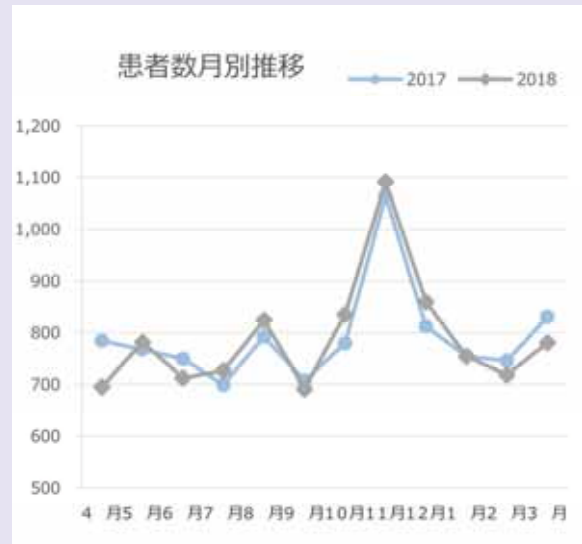
恵寿ローレルクリニック

■部門代表者

吉岡 哲也

■2018年度のトピックス、実績

患者数：9,467人（前年9,483人、前年比99.8%）



■事業報告

- ① 常勤医が1名減となったが、患者数を減らすことなく、前年とほぼ同数の診察を行うことが出来た。
- ② 妊婦健診や乳幼児健診、訪問診療など地域の幅広いニーズに対し、家庭医療という強みを活かしながら診療を行った。
- ③ 企業からの依頼で、80名のインフルエンザ予防接種を実施した。

恵寿鳩ヶ丘クリニック

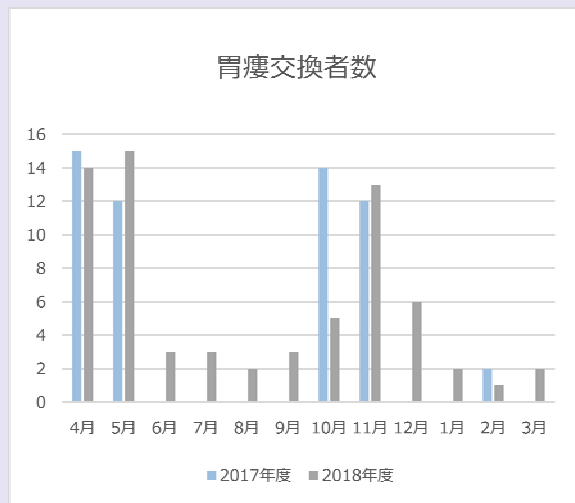
■部門代表者

宮本 正俊

■2018年度のトピックス、実績

患者数 750人

(内、胃瘻交換者数が2018年度69人：前年55人)



■事業報告

- ① 介護医療院 恵寿鳩ヶ丘の併設医療機関として、入所者のXP・CT撮影を行い、病気の早期発見・治療に努めた。
- ② 入所者の胃瘻交換及び経鼻経管栄養者の胃管カテテル交換後の造影撮影等を行った。
- ③ 穴水町の特定検診事業及び近隣市町のインフルエンザ予防接種事業への参加により、地域住民への予防医療に努めた。

介護事業統括部

介護事業統括部

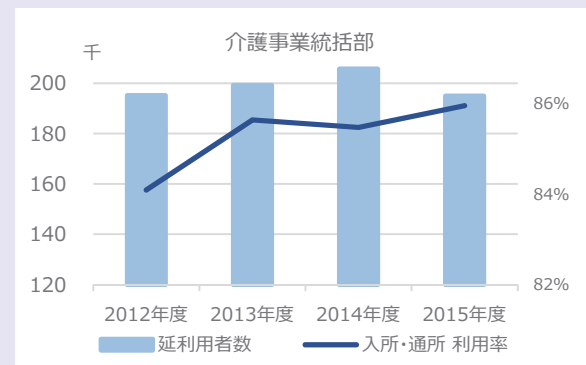
■部門代表者

吉田 茂和

■2018年度のトピックス、実績

5月に介護医療院、8月に訪問看護ステーションを開設。

介護事業全体の総利用者数は、展開事業の増減などもあり前年度に比べ約5.3ポイントの減少がみられたが、入所及び通所事業の合計利用率では、平均利用率が86.0%と、前年度をわずかに(0.5ポイント)ながら上回った。



■事業報告

- ① 入所セットの導入（4月）
入所施設の利用者・家族の利便性向上のため、衣類・タオル類・日用品などのセット提供を開始。
- ② 介護医療院の開設（5月）
本年度の介護報酬改定で誕生した、日常的な医学管理と生活機能を兼ね備えた新しい介護保険施設で県内初となる「介護医療院 恵寿鳩ヶ丘」を開設。
- ③ 訪問看護ステーションの開設（8月）
恵寿総合病院より訪問看護部門を分離し、より公益性の高い展開が可能となる、訪問看護ステーションを開設。
- ④ スマホ申し送りシステム「Dance care」の展開（3月）
これまで和光苑でシステム開発に協力してきた当該申し送りシステムを、他の入所系2施設（鶴友苑・ほのぼの）にも展開。
- ⑤ ノーリフト介護への取り組み
介護従事者の負担軽減や働き方改革の一環として「持ち上げない介護」へ向けた取り組みを進めた。

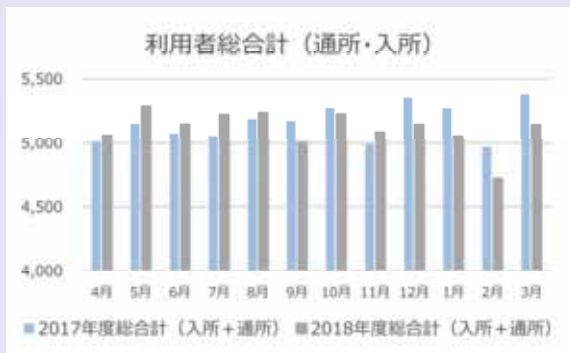
介護老人保健施設 和光苑

■所属医師

平井 洋

■2018年度のトピックス、実績

今年度は入所セットを導入し、手ぶらでも入所が出来るよう取り組み、利用者の利便性向上、職員の負担軽減に取り組んだ。



■事業報告

- ① 年間延べ利用者数 61,345 名、前年比ではマイナス0.9%の減少となった。
- ② 新加算の取得件数
低栄養リスク改善加算 53 件
褥瘡マネジメント加算 428 件
排泄支援加算 46 件
- ③ 入所セットの利用率目標
タオルセット、A セット、B セット、私物洗濯の合計の平均利用率は70.2%であり、目標の60%を超え、達成度としては117%だった。
- ④ 資格取得
喀痰吸引指導者(看護) 2名増加
喀痰吸引認定者(介護) 7名増加
アセッサー認定者 4名増加
介護実習指導者 4名増加
認知症ケア専門士 4名増加
介護支援専門員 1名増加

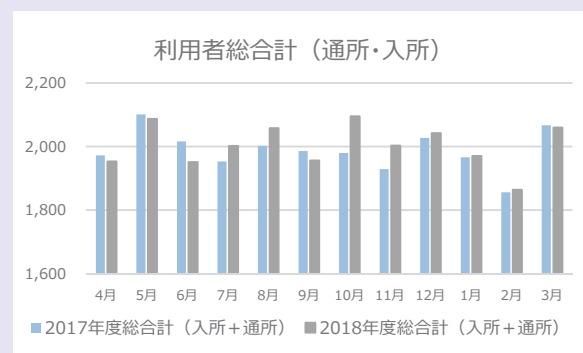
介護老人保健施設 鶴友苑

■所属医師

廣正 修一

■2018年度のトピックス、実績

4月より新施設長が赴任し、新体制での事業運営となった。入所セット、スマホ申し送りシステム（Dance care2）を導入開始した。



■事業報告

- ① 利用者数（入所+通所）
総利用延人数：24,401名（前年比+0.8%）
- ② 新規加算取得（算定開始したもの）：褥瘡マネジメント加算、栄養スクリーニング加算、排泄支援加算、低栄養リスク改善加算
- ③ 行事関係、クラブ活動
入所花見外出、通所花見ドライブ、
納涼祭・敬老会・レクリエーション大会・クリスマス&忘年会実施。通所リハ希望外出（足湯、喫茶）、獅子舞（秋）、節分行事実施。書道クラブにおいて石川県民書道展覧会シニアの部で3名優秀賞獲得。
- ④ 実習関係
金沢医科大学(医学科)、田鶴浜高校(看護・介護学科)、金沢学院大学(栄養学科)
- ⑤ ボランティア関係（定期的に来苑）：紙芝居（入所）、将棋（通所リハ）、書道クラブ（入所）
- ⑥ 地域交流関係：健康教室3回実施（金ヶ崎、相馬、オレンジカフェ）、田鶴浜小学校（学校訪問、運動会参加、鶴友苑訪問）、田鶴浜保育園慰問

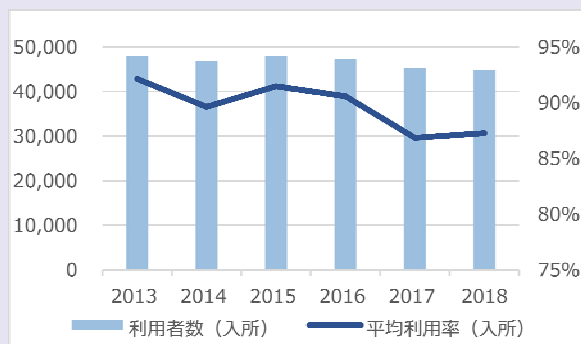
介護医療院 恵寿鳩ヶ丘

■所属医師

宮本 正俊

■2018年度のトピックス、実績

今期介護保険法改正で新たに創設された「介護医療院」に5月県内初として「介護療養型老人保健施設」より転換。2019年1月からは個室を増やし定床143床から135床とし療養環境の改善も図った。入所利用延人数は、44,888人であった。



■事業報告

- ① 県内初の「介護医療院」へ転換（5月）
日常的医学管理や尊厳を持ったケアと生活の場としての機能を兼ね備えた施設として改めてスタート。
- ② 「ケアフェスタ in 鳩ヶ丘」を開催（11月）
地域住民対象に「認知症に関する講演」、「健康なんでも相談」、「血圧、血流、骨密度測定など各種健康チェック」、「ご利用者による作品展示」を開催し、多くの来場者があった。
- ③ 入所セットの導入
衣類、下着類、タオル、口腔ケア用品などの日用品がすべて揃う仕組みとなり、利便性が向上した。利用者は手ぶらでの入所が可能になった。年度末で46%が利用中。
- ④ ノーリフティング介護(持ちあげない介護)の推進
研修会の開催を重ね、ストレッチャーが必要な特浴利用者で使用している人の割合は年度末で47%。
- ⑤ 新たな特定行為(喀痰吸引)認定者 6名増
- ⑥ マンパワーの確保
シルバー層の新規入職者数 2名

恵寿居宅介護支援事業所「けいじゅ」

■部門代表者

高松 由紀子

■2018年度のトピックス、実績

- ① 入退院時における利用者の情報共有やカンファレンス等の参加により、医療機関との連携強化、および在宅生活へのスムーズな移行に取り組んだ。
- ② 介護保険更新時の介護度改善率は20%であった。利用者の推移により、要支援者の比率が若干増加したが、年間の延べ利用者数に大きな変化は見られなかった。

延べ利用者	要支援	要介護	計
2017年度	650	4,837	5,487
2018年度	716	4,756	5,472
差異	66	-81	-15

■事業報告

- ① 目標件数：485件/月(介護430件、予防55件)
件数：456件/月(介護396件、予防60件)
達成率94%
- ② 入院時情報連携加算 200件/年
退院・退所加算 173件/年
- ③ 介護度改善率 20%
ケアマネジメント業務の質を高め、積極的に新規依頼を受け入れ、利用者増に努めていく。
- ④ 主任ケアマネ 1名資格取得。

恵寿訪問リハビリテーション事業所「けいじゅ」

■部門代表者

高松 由紀子

■2018年度のトピックス、実績

病院スタッフに訪問リハビリの紹介を働きかけ、また、ケアマネ事業所にもアピールし、新規利用者・加算の取得増加に取り組んだ。ここ3年で月平均延件数は毎年約10%の増加が認められている



■事業報告

- ① 訪問件数 415件/月（110%）
- ② 短期集中リハビリ加算 28.3件/月（153%）
- ③ 社会参加支援加算 359.4件/月（111%）
- ④ リハビリマネジメント加算Ⅰ 86.3件/月（132%）
- ⑤ 病院からの退院にあたって、病院スタッフに働きかけ、短期集中的介入により復帰後の在宅生活がスムーズにでき、訪問リハの新規利用者獲得の働き掛けをしたが、新規利用者数に変わりはなかった。しかし、週2回介入する利用者が増え、短期集中リハビリ加算増につながった。

恵寿福祉用具貸与事業所「けいじゅ」

■部門代表者

高松 由紀子

■2018年度のトピックス、実績

福祉用具専門相談員を2名配置。サービス担当者会議等に参加し、担当者に福祉用具選択の助言を行った。また、利用者・家族の要望に応えられるように貸与品を希望日に搬入することができた。



■事業報告

- ① 今期目標は、利用件数 180件/月であったが、利用件数 175件/月（97.2%）で目標を下回った。
- ② 福祉用具の選定にあたって、新規利用者に対するケアマネジャーへの助言率は94%であった。
- ③ 法人外のケアマネジャーからの依頼増加を目指し、今後は法人外の居宅支援事業所に営業活動を行っていく。

恵寿総合病院訪問看護ステーション

■ 部門代表者

受川 志津子

■ 2018 年度のトピックス、実績

2018・8 月：訪問看護ステーションを開設

訪問利用者数は年々増加している。

訪問看護ステーション開設に伴い、訪問延べ回数が大幅に増加した。今後さらに利用者数の拡大に努めていきたい。



■ 事業報告

- ① 訪問看護に対する知識を深めるため、加算関係を含めスタッフ 1 人当たり 10 回以上の研修会に参加した。
2019・1 月：サービス提供体制加算算定可能
2019・2 月：訪問看護体制強化加算算定可能
- ② 又利用者個々のケアについてカンファレンスを重ね、必要時利用している事業所とのカンファレンスも開催している。
- ③ 恵寿訪問看護ステーションの強みである、恵寿総合病院との連携を行うため、情報提供書の作成を行い、必要時病棟へ出向き情報共有を行っている。今後は入院時から病棟との看看連携ができるよう取り組んでいきたい。
- ④ 土・日・祝日対応の必要事例も増加してきている。

在宅複合施設 ほのぼの

■ 部門代表者

諏訪 勝志

■ 2018 年度のトピックス、実績

認定特定行為業務従事者資格を 4 名取得、介護プロフェッショナルキャリア段位制度評価者 1 名取得、介護プロフェッショナルキャリア段位制度レベル 2 ②に 1 名認定。

dance care2 システム導入で IT 化を進めた。



■ 事業報告

- ① 今期目標と達成度
稼働率 90% 以上を目標としたが、通所介護は 93.3% で目標を達成、短期入所は 84.1% で目標を達成できなかった。通所介護、短期入所ともにアピールポイントを作り、毎月の居宅事業所への営業回りを行っている。
- ② 教育研修
喀痰吸引研修、介護キャリア段位制度など、スキルアップのために研修に参加している。また、中能登地区 3 施設合同での勉強会を開催した。ノーリフティングに関しても勉強会を開催し、実務で活かせるようにしている。
- ③ 今後の課題
dance care2 システム導入に伴い、手書き業務削減を進めていく。通所介護では、要支援の利用者が増えてきており、中重度者ケア体制加算算定継続のためにも要介護の利用者獲得が必要となっている。短期入所では、認知症の利用者が増加し、夜間帯での対応を検討していく必要がある。

けいじゅ一本杉

■部門代表者

愛徳 亜矢

■2018年度のトピックス、実績

登録者数増加への取り組みとして見学会を開催し、計29名の参加があった。

目標登録者数 26名 実績 月平均 21.1名
達成度 81.1%



■事業報告

- ① 介護福祉士1名合格
- ② ボランティアの活用（レクリエーション、配膳のお手伝い）
- ③ デイルームを畳から洋室に変更し、人数が増えても対応できるようにした。

デイサービスセンター いこい

■部門代表者

福久 典子

■2018年度のトピックス、実績

・2018年9月栄養スクリーニング加算算定

・個別機能訓練加算 93.6%（要介護 延7,179人：
訓練実施 延6,716回）



■事業報告

- ① 稼働率 目標 75% : 75.1%
- ② 中能登事業所合同研修会でインフルエンザの水際対策についての発表を行った。他事業所の状況もケアマネや家族を通じて情報収集し、事業所内への持ち込みを防止することができた。
- ③ 利用者の長期入院、SS 利用時の稼働率に低下がみられる冬場の利用者獲得が課題となっている。今後、各事業所のケアマネに空き情報や追加利用のタイムリーな情報を提供できるような体制を作ることが必要と思われる。

恵寿みおや

■部門代表者

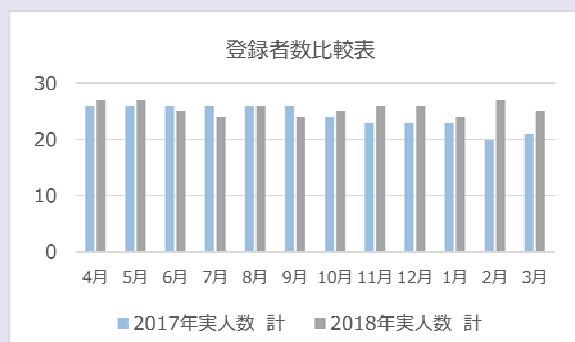
古木 恵実子

■2018年度のトピックス、実績

登録者増加を目指し、みらいカフェ 年間 12 回開催

参加者数 117 名

地域密着型の良さを生かし、みらいカフェや行事などで地域と関わる機会を増やし、新規利用者の獲得につなげ登録者数の安定を目指した。



■事業報告

- ① 目標登録者数 29 名 実績 月平均 25.5 名
達成度 88%
- ② 資格取得
介護福祉士 1 名増加
- ③ 職員講師によるみらいカフェ開催
4 月 折り紙で春を感じよう
7 月 みんなで夏を楽しもう
11 月 クリスマスフラワーアレンジメントづくり
12 月 認知症の予防・デュアルタスクをやってみよう
2 月 リボンで花を作ってみよう

障害者事業局 青山彩光苑
青山彩光苑リハビリテーションセンター

■部門代表者

瀧野 利徳

■2018年度のトピックス、実績

就労移行支援事業において、5名が一般就労を開始する。就職後の定着率の低さが国の課題として挙げられている中、当施設では法人内の就業・生活支援センターとの連携により、5名全員が継続して働くことが出来ている。



■事業報告

- ① 入所稼働率(短期入所含む)を80%以上とする。
78.9%であったため、達成度としては98.6%
- ② 機能訓練稼働率を100%以上とする。
102.2%であったため、達成度としては102.2%
- ③ 就労移行支援稼働率を94%以上とする。
94.9%であったため、達成度としては100.9%
- ④ 入所利用者の高齢化に伴い、介護、介助に費やす時間が増加してきている。ただ一方では、就労移行支援事業に10代、20代の利用者が加わり、喫茶を通じた交流の場を設定したことで施設に新たな雰囲気醸し出された。またコミュニケーションを課題とする就労移行支援事業の利用者には、直接的なトレーニングの機会としても、かかわりは有効に機能した。

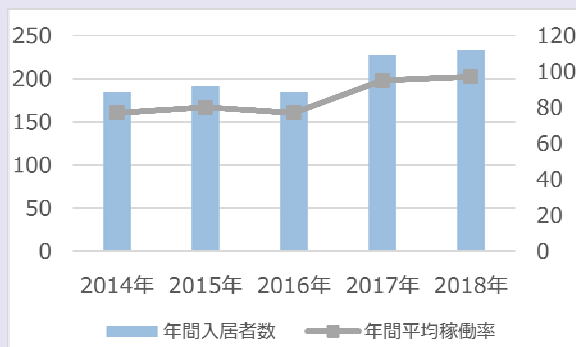
障害者事業局 青山彩光苑
バリアフリーホーム セレーナ青山

■部門代表者

瀧野 利徳

■2018年度のトピックス、実績

併設の青山彩光苑リハビリテーションセンターで実施している就労移行支援事業を経て、一般就労した方の住まいとしても利用されるようになり、これまでの主な対象である福祉的就労者からの広がりを見ることができた。



■事業報告

身体機能の低下と長期入院により、4名が退去となる。新規利用者は1名に止まり、年間平均稼働率は4%の減少となった。

<入居者の法人内サービス利用の内訳>

※重複利用を含む

(障がい者活動系)

リハビリテーションセンター	6名
ワークセンター田鶴浜	9名
障害者生活支援センター	1名

(高齢者活動系)

ふれあいの里	1名
--------	----

(生活支援系)

ローレルハイツ恵寿(ホームヘルプ)	4名
-------------------	----

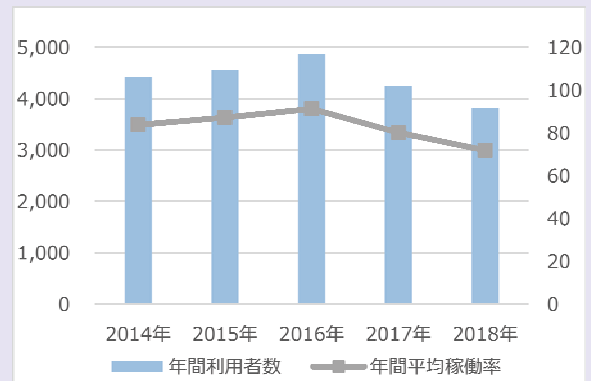
障害者事業局 青山彩光苑
さいこうえんの障害者生活支援センター

■部門代表者

前田 晋

■2018年度のトピックス、実績

年間利用者数 3,814名、前年度比 11.3%減であった。
平均稼働率 71.9%、前年度比 8.2%減であった



■事業報告

- ① 七尾市・中能登町からの委託を受け、障害者就業・生活支援センター I 型事業を実施している。地域にお住いの障がい者が通所され、日中活動を実施している。生活支援員 3 名を配置し、主に生産活動（作業）や創作活動、季節行事（花見会やクリスマス会など）、調理プログラムやレクスポなど余暇活動も行った。昨年同様に事業所所在町内の美化活動（除草作業）を行うと共に、今年度より地域住民参加型の創作活動を実施したことや、地域の教室（健康教室）に参加するなど地域共生型を意識した取り組みを行った。
- ② 相談支援事業（指定特定・指定一般・視程障害児）は、障がいのある人の様々な課題についての相談に応じ必要な情報提供、障害福祉サービス利用等の支援を行った。（年間相談件数 2,878 件）
- ③ 障害者就業・生活支援センター事業は、障がい者（または企業等）からの就職に係る相談・職場定着に係る相談、これらに伴う生活の相談を受け、その課題解決に向けて必要な情報提供、助言等の支援を実施した。（年間相談件数 1,667 件・就職件数 26 件・職場実習件数 18 件）

第 2 章 法人方針・事業報告（徳充会）

障害者事業局 青山彩光苑
青山彩光苑ワークセンター田鶴浜

■部門代表者

池田 浩

■2018年度のトピックス、実績

利用実績は、稼働率目標 83%に対し、81%昨年対比 3.5%減、延べ利用者数は 8,216 名で昨年対比 315 名減となった。事業総売上高は、昨年対比 1.0%減となったが、委託販売以外の作業も増えた。



■事業報告

- 2018年度は5名の退所者に対し、1名の新規利用者しか確保できなかった。利用者の高齢化に伴い長期離脱もあり稼働率は伸び悩み、減収となった。登録者数も、5減となり35名となった。利用者の高齢化の問題とともに、今後も利用者確保について継続課題として取り組む。
- 授産事業においては、継続して行政からの委託業務も順調で安定収入となっている。新規作物の開発について冬季期間の試験栽培をクリアし、来期は病虫害対策を研究実施し新たな定番商品への定着を目指す。他事業においては予定通り進行し、事業の安定に結び付いている。利用者工賃は県内施設のトップクラスであり、信頼される施設として、前進している。安定した収入を維持するためには常に新しいものが必要であり、開発し続ける。

障害者事業局
青山彩光苑ライフサポートセンター

■部門代表者

今寺 忠造

■2018年度のトピックス、実績

地域の方に来苑いただき、体験の幅を広げる取り組みを行った。1例として、フェイスマッサージやネイルでプロの技を体験する機会を持った。女性の約半数が参加、気持ちが晴れやかになると毎月楽しみにして頂いた。男性にはマッサージが好評で、身だしなみに関心を持つ方が増え、外出への意欲が高まった。



■事業報告

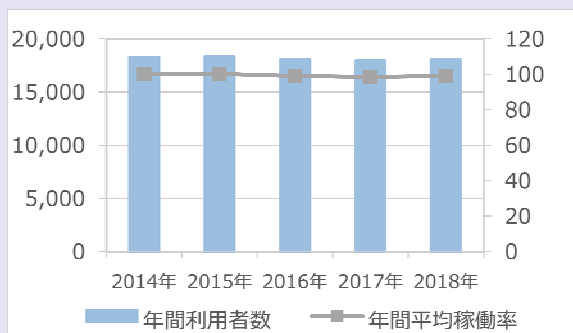
- 「専門性を生かし、QOLを豊かに！誇れる価値の創造を！」をテーマに移乗時の負担を軽減するリフトを導入。ベッドと車椅子間3人、トイレ場面2人、介護職員へ個別指導（参加率100%）の結果、リフト使用に好感が高く、体への負担軽減を実感した介護職が約60%。利用者にも好評。
- 利用者のQOLを豊かにする支援として、①地元の祭りに10年ぶりに参加、②金沢でご家族と面会（今後の継続を前提）、③ボランティアとの買い物等を実施。外出企画では、水族館・動物園・外食など延べ309人が参加。昨年好評頂いた誕生日の写真撮影を実施。スーツにアクセサリーなどおしゃれをした女性やご家族が持参したアロハをきて撮影した男性など記念となる1枚ができ、満足していただいた。（延べ126人）
- 食事支援では、毎月の特別メニュー実施。おやつ教室・いきいきクッキングの体験も取り入れた（延べ81人）。
- 年間稼働率 生活介護事業 117.7% 施設入所支援事業 101.1% 短期入所事業 77.2%。

障害者事業局
青山彩光苑穴水ライフサポートセンター

■部門代表者
細木 俊逸

■2018年度のトピックス、実績

- ① ノーリフトに取り組んだ。電動ベッド・スライドボードなど機器の導入、勉強会を通して職員の意識改革を推進した。
- ② 利用者に対して行った活動
 - a) 作業活動（自主製品：管袋、シューズキーパーの製作・販売、請負作業：ペーステープの剥離（穴水村田製作所）、アルミチューブの分別（トパテック）など）
 - b) スポーツ（ポッチャ：全国大会、北陸信越大会出場、風船バレーボール他）
 - c) 余暇支援（園芸、クッキング、カラオケ、映画上映）



■事業報告

- ① 生活介護入所稼働率は 99.0%、目標稼働率は 98.0%であり、目標達成率は 101%であった。
- ② 生活介護通所稼働率は 106.6%、目標稼働率は 100%であり、目標達成率は 106.6%であった。
- ③ 施設入所稼働率は 99.1%、目標稼働率は 98%であり、目標達成率は 101.1%であった。
- ④ 短期入所稼働率は 83.0%、目標稼働率は 90%であり、目標達成率は 92.2%であった。
- ⑤ まとめ
いずれの事業も前年比 0.5%~2.4%の割合で利用増となった。地域で生活している障がいのある方のニーズを測る指標として参考となる、通所生活介護や短期入所利用者の傾向として、知的、精神障がいのある方の割合が増えている。利用者のニーズもより目的指向型（就労・機能訓練・出来ることを増やしたい）となっているため、柔軟に対応していく。

障害者事業局
石川県精育園

■部門代表者
今寺 忠造

■2018年度のトピックス、実績

平均障害支援区分 4.7、平均年齢 55 歳。生活介護稼働率 99.1%（前年 99.4%）。施設入所支援稼働率 90.3%（前年 90.9%）。供に稼働率は前年比に比べて減となった。退所者が 6 名で入所者が 3 名であったのが要因。生活介護については、生活介護のみを利用する通所利用者が常時 9 名（前年 7 名）、長期短期入所の利用が居なくなり短期入所の稼働率は少なくなった。
4 月に開所した自立ホームけいじゅの GH（定員 20 名）は、翌年 3 月に満床となる。併設事業として、短期入所（定員 4 名）、相談支援キララ、ヘルパーステーション銀河（居宅支援）、地域交流スペース等など多機能型の事業を展開が出来るようになり、特に、圏域初の行動援護の支援の実施が可能となった。



■事業報告

- ① 65 歳以上が 26.8%を占め、最高齢者が 84 歳。高齢化による利用者の機能低下が顕在化し、泌尿器系疾患に伴う通院回数が増えている。転倒予防・便秘対策・嚥下評価など事業所全体の多職種で支援している。また、感染症の予防についても職員一丸となって取り組んでいる。重度障害者加算対象者 43 名がいる中で、障害の重い方に対する支援力を高めるための研修や職員の資格取得の支援を行い 9 名が新たに介護福祉士、社会福祉士の資格取得をした。
- ② 日中活動としては、オープン精育園として家族が参加しやすい取り組みや障害者週間による利用者の作品展示、ボランティアとの共同活動など実施して施設の価値を高めることが出来た。ただ、余暇支援の充実や利用者の QOL の向上に努めたが、家族、利用者に対する施設運営についての満足度調査では、居室の個室化など設備面の充実を希望する意見が寄せられている。
- ③ GH の新設に伴い、施設より 3 名の方が地域移行し GH での新しい生活が継続出来るように支援している。

高齢者事業局
エレガントなぎの浦・アンジェリィなぎの浦

■部門代表者
江沢 恵太

■2018年度のトピックス、実績

- ① 特養では、看取り介護を継続して実施。摂食嚥下、口腔衛生を中心に専門職の根拠に基づいたケアを実施。日頃のサービス提供に関して、家族参加のサービス会議を積極的に開催し、ニーズを取り入れたプランに基づく支援を実施し、家族との信頼関係づくりにも繋がった。
- ② ケアハウス入居者への支援として、買い物外出、脳トレ、健康教室等の認知症予防に対する生活支援を導入。デイサービスでは、介護予防による歩行プログラムを実施し、楽しみながらプログラムに取り組める内容とした。



■事業報告

- ① 目標稼働率は、特養 96%、ショートステイ 96%、ケアハウス 100%、デイサービス 86%。平均稼働率実績は、特養 96.1%、ショートステイ 85.0%、ケアハウス 93.1%、デイサービス 85.1%。
特養については、目標稼働率の達成に至ったが、その他の事業は目標を下回った。特にショートステイは、入所、入院等によるキャンセルが多く、利用者の減少も見られている。新規利用者はいるものの、利用者数の減少に対する今後の対応を検討する必要がある。ケアハウスへの支援として、時間を持て余している利用者の方へも多く、健康教室、喫茶、脳トレ等の活動の機会を提供することで、意欲的な活動に繋がった。
- ② 人材育成の一環として、会議での様々な課題に対してグループワークを実施、それぞれが自ら考え発言し、行動につなげる取り組みを行った。

高齢者事業局
エレガントたつるはま・もみの木苑

■部門代表者
山外 初美

■2018年度のトピックス、実績

エレガントたつるはまでは、看取り委員会を発足、利用者様の終末期における選択肢の拡大につながり、看取り介護も実施した。もみの木苑では、すまいるギフトとして年間行事の写真を笑顔写真展として掲示し、利用者や家族に喜んでいただき好評であった。



■事業報告

- ① 目標稼働率は、エレガントたつるはま（特養）99%、デイサービスセンターもみの木苑 90%。平均稼働率実績は、エレガントたつるはま 97.1%、空床利用ショートステイ 0.3%。もみの木苑は、85.3%であった。特養は、看取り介護を実施し、介護チーム制のケア継続により、目標には至っていないが結果的に入院日数の減少につながった。また、空床に関してもベットコントロール会議に参加し、スピーディーに対応できた。デイは、新規利用者が徐々に増え、利用休止や中止はあるも、昨年の稼働を上回った。
- ② エレガントたつるはま、もみの木苑では、地域密着型施設として、行事等には地域の介護支援サポーター会の協力をいただいたり、地区の祭りや保育園等へ施設から出向いたりするなど、地域交流を図った。

高齢者事業局 ふれあいの里

■部門代表者

芳原 哲弥

■2018年度のトピックス、実績

活動と参加を活性化させるために事業所内通貨「フーレ」を発行し様々な特典を設けることで多くの方々に楽しんでいただけた。利用者の大半が利用する入浴をより楽しんでいただくためにタイルアートで富士山を描き好評を得た。塗り絵展への出展や創作活動にも力を入れて取り組んだ。



■事業報告

- ① 通所介護の年間稼働率目標は82%
達成度は96.2%
死亡や入所、長期ショートステイ利用などによる利用の休止や中止が多く稼働率は伸び悩む結果となったが、営業の強化で新規利用者の獲得では前年を上回った。基準緩和通所型サービスは7名の利用者が毎週月曜日に利用している。
- ② 訪問入浴は84件/月以上の提供を目標とする
達成度は55.4件/月
職員の離職等により、営業日を縮小せざるを得ない状況が続いた。ターミナルケアを対象とした利用者の受け入れを強化した。年間で9名の新規を受け入れた。
- ③ 配食サービスの目標配達件数2,200件/月
達成度は1,918件/月
七尾市の受付の基準が前年よりも厳しくなり新規も減少した。

高齢者事業局 ローレルハイツ恵寿

■部門代表者

内田 かおり

■2018年度のトピックス、実績

ローレルでは脳を活用し、達成感のある住まいづくりに取り組み、また安定した収支になるよう新規加算取得にも取り組んだ。また、入院枠のSSも取得。全館、一年を通して満室を維持した。また、ローレル入居者が病院の浴室を利用できるようにし、ローレルバリューが1つ加わった。



■事業報告

- ① 『脳』を活用したシニアライフ
年2回の漢字検定試験の実施。また、試験に向けた勉強会を1回/週実施した。
- ② 『達成感』のあるシニアライフ
10級に11人、9級に10人合格した。
- ③ 安定した収支
全体入居率100%
a) ケアハウス 目標稼働率100%
結果：99.9%（急死による籍切れがあったため100%にならずも、ほぼ近い数字となった）
b) 新規で口腔衛生管理体制加算・栄養スクリーニング加算・退院退所時連携加算を取得。
c) 入院枠を短期利用に使用。
d) サ高住 目標入居率100%
結果：年間通して、常に満室とした。
- ④ 『人から人、人を呼ぶ』
a) 入居申し込みは『人から聞いた』と言われる方が多かった。
b) 職員では、清掃係のパート、鵬学園高校生のアルバイト、介護職員、事務補助職員が入職した。いずれも職員からの紹介である。
- ⑤ ノーリフティング
委員会を立ち上げ、特定・ヘルパーともにノーリフティングに取り組んだ。1回/月の見直しを行いながら、一人ひとりに合ったノーリフティングのトランスファーを行った。また、ヘルパー内でも在宅でのノーリフティングに取り組み、負担軽減につながった。

事務局
健康増進センターアスロン

■部門代表者

一谷 真澄

■2018年度のトピックス、実績

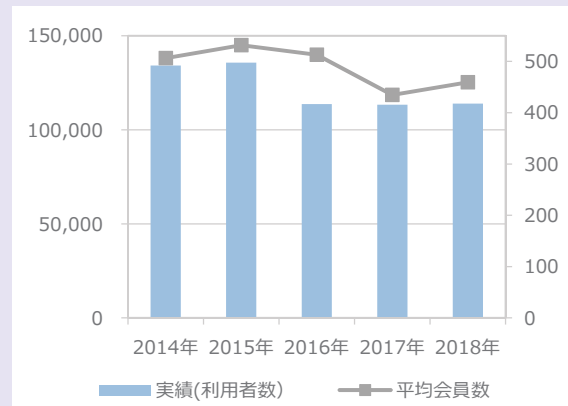
会員数増への取組み

『春／秋得々プレゼントキャンペーン』の実施

新規入会者を紹介した会員に対しアスロンオリジナルグッズをプレゼント。(入会者は入会金を無料とする)

春秋4ヶ月間の新規獲得数

春→13名、秋→17名 合計：30名増



■事業報告

- ① 介護事業【基準緩和通所型サービス（運動型）】
の取組み。
平成 29 年 4 月より事業開始。現在、6 名で活動中。
- ② 中能登町との連携
「集団型」
対象者：65～85 歳未満の高齢者
内容：運動機能向上プログラム 3ヶ月間（2クール）
「個別型」
対象者：特定保健指導に該当した方。
週 3 回アスロンへ通える方。
現在アスロンの会員ではない方。
内容：運動を中心とした生活習慣予防の為の個別支援をアスロン会員として 3ヶ月実施する。
定員：10 名

事務局
徳充会 総務部

■部門代表者

山下 賢、畑中 浩樹

■2018年度のトピックス、実績

- ①いしかわ男女共同参画推進宣言企業の申請。
- ②徳充会ホームページの刷新。「徳充会+(プラス)」を掲載。
- ③教育体系・研修プランの見直し。
- ④採用実績（正規職員 14 名、臨時職員 41 名）

■事業報告

- ① 女性が活躍する企業をめざした取組。
「いしかわ男女共同参画推進宣言企業－女性活躍加速化クラス－」の認定を受ける(平成 31 年 3 月 14 日)。
- ② 防災、防犯体制マニュアル改定。
- ③ 徳充会ドレスコードを制定。

事務局
徳充会 経営企画部

■部門代表者

松下 清寛

■2018年度のトピックス、実績

- ① 2018年度は一定規模以上の特定社会福祉法人となり、会計監査人調査への対応。(会計業務体制の強化)
- ② 電気料金値上げへの対応として、新電力会社へ契約変更。9拠点の契約を変更し、年間約640万円の電気代を削減。
- ③ 法人の内部管理体制の整備(基本方針を決定、個人所法管理規程改正)

■事業報告

- ① 会計・請求業務
- ② 補助金申請
(国土交通省補助金、省エネ推進補助事業)
- ③ 理事会・評議員会開催(6月、3月)
- ④ 法人登記手続き(資産総額変更)
- ⑤ 指導監査の対応
 - a) 石川県厚生政策課(実地監査5施設、書面監査6施設)
 - b) 石川県監査委員監査実施(11月)

事務局
アドボカシー室

■部門代表者

池田 まり子

■2018年度のトピックス、実績

スローガンとして

「思いに耳を傾けよう 聴く姿勢と積極的な声掛けを！」を掲げた。

◆講義

- ・ハラスメントについて・・・法人内主任者研修
- ・対人援助について・・・法人内1事業所

■事業報告

- ① アドボカシー室には17件の電話、意見が寄せられた。
- ② 話を聴くことで安心感が得られたというケースあり、ほか職員の言葉使い、対応が指摘されることなど貴重な意見を頂く事ができた。
- ③ 思いを真摯に受け止め改善できることはスピード感をもって対応してきた。今後もこの姿勢は大切であり、その姿勢を継続してこそまた貴重な意見を頂ける機会としてつながっていくことになると思う。

徳充会 教育研修委員会

■委員会代表者

松下 清寛

■2018年度のトピックス、実績

2018年度 委員会回数 4回

- ① セルフマネジメント研修（講師：榮山真希子氏）
11/7・14・21（3会場にて開催）
参加者数 71名
- ② 介護福祉士受験対策講座（董仙会合同事業）
・国家試験対策模擬試験（12/15）
受験者 21名
・フォローUP勉強会 11/9～1/13（9回開催）
その他高校の補修学習会、合宿勉強会

■委員会検討内容

- 第1回 2018年8月6日（月）
年間事業計画の検討・決定
4つの事業を実施することを決議
- 第2回 2019年9月3日（月）
取り組み事業別の担当割振り
セルフマネジメント研修の概要確認
介護福祉士試験対策講座の概要確認
階層別研修の概要確認
キャリア段位制度の受講者数の確認
- 第3回 2019年10月1日（月）
セルフマネジメント研修の実施概要報告
介護福祉士試験対策講座の実施概要報告
- 第4回 2019年3月4日（月）
年間事業の実施報告・次年度への継続確認
セルフマネジメント研修の実施報告
介護福祉士試験対策講座の実施報告
キャリア段位制度受講について

徳充会 福利厚生委員会

■委員会代表者

松本 美華

■2018年度のトピックス、実績

2018年度 委員会回数 7回

- ① 2018年7月21日（土）レク企画 ソフトバレーボール大会&BBQ（参加者52名）
- ② 2018年11月17日（土）～11月18日（日）
旅行企画 京都方面（参加者29名）
- ③ 2018年12月1日（土）レク企画 職員交流ポウリング大会（参加者45名）
- ④ 2019年2月9日（土）旅行企画 あへの風昼食・入浴付日帰り（参加13名）

■委員会検討内容

- 第1回 2018年5月10日（木）
・各事業所への行事助成金の取り扱いについて
・昨年度の活動報告及び今年度の事業予定について
- 第2回 2018年6月7日（木）
・各企画の担当について
・ソフトバレーボール大会&BBQ、旅行企画について
- 第3回 2018年8月17日（金）
・ソフトバレーボール大会&BBQ企画報告及び反省
・旅行企画（京都方面）参加状況報告
- 第4回 2018年9月28日（金）
・旅行企画の経過報告・ポウリング大会企画について
・旅行企画（日帰り）の代替企画について
- 第5回 2018年10月19日（金）
・旅行企画（日帰り）の経過報告
・ポウリング大会企画について
- 第6回 2018年12月14日（金）
・旅行企画（京都方面）の報告
・ポウリング大会の報告
・旅行企画（日帰り）の経過報告
- 第7回 2019年3月8日（金）
・旅行企画（日帰り）の報告
・福利厚生助成金の利用状況について
・今年度の反省、来年度への要望等

事例研究大会

■委員会代表者

越田 美喜子

■2018年度のトピックス、実績

事例研究大会・・・2019年3月2日（土）

会場・・・サンビーム日和ヶ丘（4会場）

大会テーマ

「新たな価値の創造 ～自らを innovation する～」

提出事例数・・・72事例（うち発表 36事例）

参加人数・・・199名、前年比 10.5%増

部門(障害者・高齢者)ごとに最優秀賞、優秀賞、

苑長賞を設け、職員会議で表彰を行う。

■委員会検討内容

第1回・・・昨年のアンケートの確認など。(2018.5.16)

第2回・・・今年度の方針、大会テーマなど。(2018.6.13)

第3回・・・評価表見直し、レポート素案など。(2018.7.11)

第4回・・・大会日時、会場を検討。(2018.8.8)

第5回・・・大会要綱の作成。(2018.9.12)

第6回・・・会場、評価表の最終確認。(2018.10.10)

第7回・・・原稿要領、座長依頼など。(2018.11.14)

第8回・・・レポート、アンケートの取り扱いなど(2018.12.12)

第9回・・・事例データ等の提出、当日役割(2019.1.16)

第10回・・・冊子印刷、大会当日の確認(2019.2.6)

第11回・・・表彰、アンケート集計、レポート提出(2019.3.20)

① 今年度の新規取り組み内容

- a) 感染症対策等から会場を施設外で行った。
- b) 事例作成での個人負担を軽減する目的で、新規事業など各部署での取り組みを中心にチームで事例を作成。
- c) 事例作成していない職員はレポート（感想）を提出。
- d) 評価表の見直しと評価を作成者にフィードバック。
- e) 大会終了後のアンケートの公表。

② 課題

- a) レポートを導入した理由やその対象者の取り決めについて、十分に周知できていなかった。
- b) 勤務時間内に事例の作成を促したが十分ではなかった。
- c) 新しい取り組みに対しアンケートでは賛否が明確となった。継続することで標準化されることもふまえて、全員が事例を作成する形に戻すべきか（それに伴うレポートの有無）、評価表を返すべきかどうかは次年度に検討が必要である。



2019年1月25日 外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）更新